

尼寺観音寺跡

—県営中山間総合整備事業尼寺地区ほ場整備に伴う発掘調査報告書—

2023年3月

公益財団法人和歌山県文化財センター



調査地全景 船戸山を望む（西上空から）



調査地全景（西上空から）

序

尼寺観音寺跡は、紀の川市貴志川町に所在し、南北にのびる河岸段丘に沿って流れる貴志川の支流である丸田川北岸の台地上に位置します。本遺跡は、東西約180m、南北約120mの範囲に広がっており、今回の調査地はこの台地の突端部にあたります。

発掘調査は行われていませんでしたが、周辺で奈良時代の軒丸瓦が採集されていることから、古代寺院に関連する埋蔵文化財が展開する可能性がありました。

本調査では予想していた古代寺院に関連する遺構は確認できていませんでしたが、調査地周辺の土地の来歴などの調査成果を得ることができましたので、ここに、調査成果を取りまとめ調査報告書を刊行いたします。この成果が当該地域の歴史を知る上で一資料となれば、幸いに存じます。

最後となりましたが、発掘調査ならびに本書の作成にあたり、ご指導、ご助言をいただきました関係各位の方々、地元の方々に深く感謝申し上げます。

令和5年3月10日

公益財団法人和歌山県文化財センター
理事長 櫻井敏雄

例言

1. 本書は、和歌山県紀の川市貴志川町尼寺に所在する尼寺観音寺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は県営中山間総合整備事業尼寺地区ほ場整備に伴うもので、発掘調査業務は令和3年度、出土遺物等整理業務は令和4年度に実施した。
3. 発掘調査及び出土遺物等整理業務は、和歌山県からの委託事業として和歌山県教育委員会（以下、「県教育委員会」という。）による指導のもと、公益財団法人和歌山県文化財センター（以下、「当センター」という。）が実施した。
4. 発掘調査及び出土遺物等整理業務に要した経費は、和歌山県が負担した。
5. 現地調査に際し、各関係機関並びに近隣の方々から多大なご協力を得た。
6. 発掘調査及び出土遺物等整理業務にかかる体制は以下のとおりである。
発掘調査（令和3年度）及び出土遺物等整理業務（令和4年度）

事務局長（管理課長）	平林 照浩
埋蔵文化財課長	高橋 智也
発掘調査・出土遺物等整理業務	田之上 裕子
7. 遺構・遺物の写真撮影及び本書の編集・執筆は田之上が行なった。
8. 基本的に、調査区名、遺構名は発掘調査時のものを踏襲した。
9. 発掘調査及び出土遺物等整理業務で作成した実測図・写真・台帳等の記録資料は当センターが、出土遺物は県教育委員会が保管している。

凡例

1. 発掘調査及び出土遺物等整理業務は、『財団法人和歌山県文化財センター発掘調査マニュアル（基礎編）』（2006.4）に準拠して行った。
2. 発掘調査及び本書で使用した座標値は、平面直角座標系（平成14年国土交通省告示第9号）第VI系、標高は東京湾平均海面（T.P.+）の数値であり、単位はmを使用している。方位は、座標北（G.N.）を用いた。
3. 土色は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人 日本色彩研究所色票監修 小山正忠・竹原秀雄 編・著『新版標準土色帖』（2018年版）を使用した。
4. 遺構・遺物の縮尺は、各挿図に明記した。また、遺構・遺物写真等の図版縮尺については任意であり、統一していない。
5. 調査で使用した調査コードは、21-10・009（2021年度一紀の川市貴志川町・尼寺観音寺跡）で、記載資料はこのコードを用いて管理している。

本文目次

第1章 位置と環境	1	第1節 地区割の設定	5
第1節 地理的環境	1	第2節 調査の手順	5
第2節 歴史的環境	1	第4章 調査成果	7
第2章 調査の経緯と経過	3	第1節 基本層序	7
第1節 調査にいたる経緯	3	第2節 調査の成果	8
第2節 発掘調査の経過	3	1. 第1調査区の調査成果	8
第3節 出土遺物等整理作業の経過	4	3. 第2調査区の調査成果	8
第3章 調査の方法	5	第5章 まとめ	20

挿図目次

図1 周辺の遺跡位置図	1	図13 01掘立柱建物跡 平面図・土層断面図	15
図2 北山廃寺出土の軒丸瓦	2	図14 02掘立柱建物跡 平面図・土層断面図	16
図3 地区割図	5	図15 第2調査区 第3層出土遺物実測図①	17
図4 調査区 全体図	6	図16 第2調査区 第3層出土遺物実測図②	18
図5 土層断面柱状図	7	図17 第2調査区 第3層出土遺物実測図③	19
図6 第1調査区 第4層出土遺物実測図	8	図18 第2調査区 第4層出土遺物実測図	20
図7 第1調査区 平面図・土層断面図	9	図19 79土坑 平面図・土層断面図 及び各遺構出土遺物実測図	21
図8 第1調査区 東壁土層断面図	10		
図9 第2調査区 平面図	11		
図10 第2調査区 東壁土層断面図	12		
図11 第2調査区 北壁・南壁土層断面図	13		
図12 第2調査区 第1・2層出土遺物実測図	14		

表目次

表1 出土遺物観察表（土器）	23	表3 出土遺物観察表（鉄製品）	24
表2 出土遺物観察表（瓦）	24		

写真図版目次

巻頭図版 上 調査地全景 船戸山を望む
(西上空から)

下 調査地全景(西上空から)

写真図版1 第1調査区

1. 調査区 全景(西上空から)
2. 第3層上面 耕作地検出状況(北から)
3. 調査区 第5層上面 全景(北から)

写真図版2 第1調査区

1. 調査区中央 東西方向土層断面
2. 調査区南 西壁土層断面
3. 確認トレンチ1 全景(西から)

写真図版3 第1調査区

1. 確認トレンチ1 北壁土層断面
2. 確認トレンチ2 全景(南から)
3. 確認トレンチ2 北壁土層断面

写真図版4 第2調査区

1. 調査地 全景(南上空から)
2. 調査区 全景(西上空から)
3. 調査区 全景(北上空から)

写真図版5 第2調査区

1. 調査区北 第5層上面 全景(北から)
2. 調査区中央 第5層上面 01掘立柱建物跡(東から)
3. 調査区中央 第5層上面 02掘立柱建物跡(東から)

写真図版6 第2調査区

1. 調査区中央 第5層上面 78土坑全景
(東から)
2. 調査区中央 東壁土層断面
3. 調査区南 南壁土層断面

写真図版7 第2調査区

1. 調査区南 第5層上面 全景(東から)
2. 調査区南 第5層上面
102柱穴跡検出状況(南から)
3. 調査区南 第5層上面111石積溝(北から)

写真図版8 出土遺物

写真図版9 出土遺物

写真図版10 出土遺物

写真1 人力による遺物包含層掘削作業

写真2 現地公開風景

写真3 出土遺物復元作業

写真4 出土遺物実測作業

写真5 デジタルトレース作業

第1章 位置と環境

第1節 地理的環境

尼寺観音寺跡（9）は、紀の川市貴志川町尼寺に所在し、和歌山北部を西流する紀の川の支流である貴志川の西岸を南北にのびる河岸段丘に沿って流れる貴志川の支流である丸田川左岸の丸田川の河岸段丘上、標高38～41mに位置する。同遺跡は、東西約180m、南北約120mの範囲に広がっており、本調査地は丸田川の河岸段丘の突端部にあたり、遺跡の北辺に位置する。

第2節 歴史的環境（図1）

尼寺観音寺跡はこれまで発掘調査は行われていないが、周辺で奈良時代の軒丸瓦が採集されている遺跡であり、現在の観音寺の北に位置する本調査地は尼寺観音寺跡範囲内の北部にあたるため、古代寺院関連の埋蔵文化財が展開する可能性が高いと考えられていた。

旧石器時代 紀の川市貴志川町は、紀北地域の中でも多くの遺跡分布が見られる。大池周辺の大池遺跡（21）、尺谷池遺跡（34）等、平池周辺の平池遺跡（19）等が存在する。調査が実施されていないが、ナイフ形石器等が採集されている。

縄文時代 大池遺跡や尺谷池遺跡等で石鏃等のサヌカイト製石器が多く採集されているが、遺跡



図1 周辺の遺跡位置図

1 七つ塚古墳群 3 具足壺古墳群 4 岸宮祭祀遺跡 5 宮山経塚群 9 尼寺観音寺跡 12 丸山古墳 14 三味塚古墳 15 罐子塚古墳 17 双子三味塚古墳 18-1 平池1号墳 19 平池遺跡 21 大池遺跡 22 高尾山古墳群 23 北古墳群 24 応其上人宝篋印塔 25 北宝篋印塔 27 北山廃寺 34 尺谷池遺跡 37 北遺跡 38 神戸遺跡 39 前田遺跡 49 北山三嶋遺跡

（番号は和歌山県埋蔵文化財包蔵地地図による）

出典：和歌山県埋蔵文化財包蔵地地図

<https://wakayamaken.geocloud.jp/webgis/?z=15&ll=34.225%2C135.166&t=gsi&mp=4>

の詳細は不明である。貴志川上流の河岸段丘上に位置する溝ノ口遺跡が縄文時代後期を中心に晩期まで続く大規模な集落遺跡として県下でも知られている。

弥生時代 貴志川右岸の河岸段丘上にある、楠田遺跡とも呼ばれる北遺跡（37）が知られおり、この遺跡は「貴志川町史」編纂事業として確認調査が行われ、弥生時代中期から後期にかけての集落遺跡であると確認されたが、全体像は不明である。その他の遺跡についてはあまりわかっていなかったが、平成20年から平成23年に実施された北山廃寺（27）、北山三嶋遺跡（49）の発掘調査において、弥生時代の竪穴建物跡4棟が確認されたことから、当地域における貴重な調査成果となった。

古墳時代 集落遺跡としては、貴志川左岸の氾濫原から低位段丘にかけて、神戸遺跡（38）、前田遺跡（39）が存在するが、実態は不明である。周辺では6世紀を遡る遺物は確認されていないが、5世紀代に大型古墳の築造がなされていることから、今後発見される可能性が高い。貴志川左岸の段丘上に、丸山古墳（12）、罐子塚古墳（15）、三味塚古墳（14）等の直径40m級の大型円墳が築造される。丸山古墳からは甲冑一組、鉄製鉢、直刀、鉄鋌、玉類、琴柱形石製品、円筒埴輪が、罐子塚古墳からは鉄製馬具、鉄鎌、挂甲の小札、滑石製紡錘車、須恵器片が出土している。三味塚古墳からは円筒埴輪、形象埴輪が出土したのみで詳細は不明である。埋葬施設は、丸山古墳が箱式石棺で、三味塚古墳も結晶片岩の板石が確認されているため、箱式石棺の可能性が高い。前方後円墳は6世紀後半になって、平池周辺で平池1号墳（18-1）、双子三味塚古墳（17）が築造されるようになる。貴志川右岸では、6世紀後半になって北古墳群（23）、高尾山古墳群（22）に石柵をもつ古墳が築造されるようになる。6～7世紀にかけて鳩羽山丘陵において具足壺古墳群（3）、七つ塚古墳群（1）等で終末期古墳が築造される。

飛鳥・奈良時代 本遺跡の北東に、奈良時代前期（白鳳時代）の寺院である、北山廃寺跡が所在する。北山廃寺（27）、北山三嶋遺跡（49）の発掘調査において、瓦窯3基及び瓦製作に伴う粘土採掘坑や鑄造炉、工房跡の可能性のある掘立柱建物跡、多くの古代瓦等の出土遺物とともに、寺域の区画と考えられる溝を確認したことによって古代寺院の外縁部が確認された。その結果、古代寺院における生産活動について明らかになった。

平安時代 本遺跡の西方、鳩羽山の南麓に岸宮祭祀遺跡（4）が所在する。この遺跡では奈良時代から鎌倉時代の環状配石遺構や敷石遺構、井戸遺構などの祭祀遺構が発見され、和鏡・鐸形銅製品・魚形銅器・滑石製有孔石製品等が出土している。鳩羽山頂（標高265m）近くにある「たてり岩」から山麓の岸宮八幡神社に至る地域において、祭りの場が時代によって変遷していく過程を示した複合遺跡と考えられる。

中世以降 居住地が移動したためか、遺跡の情報が少なくなる。刀子や土師器皿が出土した宮山経塚群（5）、応其上人宝篋印塔（24）、北宝篋印塔（25）等から中世半ばの人々の活動がうかがえる。北山三嶋遺跡でも、中世の遺構として、掘立柱建物跡を含む多数の柱穴跡、瓦窯2基、粘土採掘坑等が検出され、13世紀から14世紀頃に行われた集落跡からの土地改変のうち、遺構や遺物が希薄となり、それ以降耕作地化されて近世や近代に土地利用が続いたものと思われる。

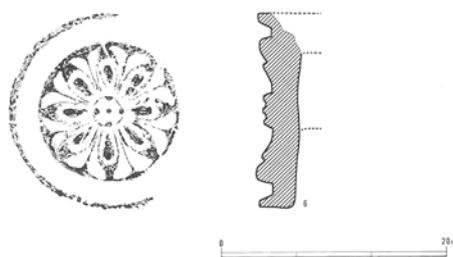


図2 北山廃寺出土の軒丸瓦
(和歌山県文化財センター2012より転載)

第2章 調査の経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

和歌山県により紀の川市貴志川町尼寺地区における県営中山間総合整備事業尼寺地区ほ場整備事業が計画され、その予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である「尼寺観音寺跡」に該当することから、和歌山県から文化財保護法第94条に基づく通知が提出された。和歌山県教育委員会（以下「県教育委員会」という。）による確認調査成果から、県教育委員会より和歌山県へ記録保存調査が必要である旨の通知がされた。これにより当センターが和歌山県より依頼を受け、県教育委員会指導の下、ほ場整備予定地のうち調査対象1230.0㎡において記録保存を目的とした本発掘調査を行うこととなった。

令和3年6月11日に、「県営中山間総合整備事業尼寺地区ほ場整備に伴う尼寺観音寺跡発掘調査業務」として和歌山県と契約を行い、事業を実施した。

第2節 発掘調査の経過

文化財保護法第92条第1項の規定に基づく発掘調査届出書を、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第55条第1項及び和歌山県教育委員会の事務処理の特例に関する条例第2条に基づき、令和3年6月17日に紀の川市教育委員会を經由して、県教育委員会に提出した。

第2調査区の一部が市道・中21号線にあたることから、調査は道路管理者及び警察署の許可が必要となったため、令和3年8月3日、道路掘削許可申請書を紀の川市長宛てに、道路使用許可申請書を岩出警察署長宛てに提出し、令和3年8月6日に、3紀道河発第125002号で紀の川市より、道路使用許可書岩交第1178号で岩出警察署より、各々許可を得た。しかし、調査期間が延長となり、変更届の提出が必要となったため、令和3年10月15日、工事内容変更届を紀の川市長宛てに、道路使用許可証記載事項変更届を岩出警察署長宛てに提出して受理された。調査の終了後、紀の川市長宛てに工事完成届を提出した。

発掘調査は、「県営中山間総合整備事業尼寺地区ほ場整備に伴う尼寺観音寺跡発掘調査業務」として、大東コンクリート有限会社に再委託し、令和3年7月14日から令和4年1月30日までの工期で実施した。

第1調査区では、東側の現耕作地より一段高い位置にある耕作地である西側調査で、北で現地表面下0.5m、南で現地表面下1.4mにおいて地山面が検出された。南へ行くほど地山面が低く、中世ごろから現代まで整地と盛土を繰り返し、耕作地としている状況が見られた。現状で、西側よりも東側が低い位置にあり、特に、西側北部の遺構面である地山面よりも東側が0.3mほど低いことから、近現代の耕作等によって地山面が人為的に削平されているものと想定されるため、サブトレンチ調査により、東側の土層堆積状況を確認した。その結果、東側の土層については、第1層現代の耕作土、第2層近世もしくは近代の耕作土、第3層床土、第4層地



写真1 人力による遺物包含層掘削作業

山層であり、西側でみられた遺物包含層や中世以降の耕作土と盛土もみられなかった。近世以降に人為的に削平され、中世以降の遺構は残存していないと考えられた。そのため、10月8日に行った和歌山県教育庁生涯学習局文化遺産課（以下、「県文化遺産課」という。）との協議の結果、東側の調査については、本調査を要しない場所とすることになり、調査面積を減少することとなった。

第2調査区は10月8日の協議では、通行の安全等を確認するため当初は設定していなかった南・北の境界での控えを設けることとなった。北境界には民家の出入口があることから約0.5mの控えをとり、調査範囲の南境界には東西方向の道路があることからまた幅0.45mの控えをとった。南東部の斜面地において民家に近接していることから幅1.0mの控えをとり、さらに、地山面が想定以上の深さで確認されたため、1.0mの犬走を設けて段掘りして、南斜面が崩落しないように安全に調査を行なうものとして、県文化遺産課との協議の結果、調査面積が減少となり、799.8㎡を調査することとなった。

航空写真測量及び基準点測量は、「県営中山間総合整備事業尼寺地区ほ場整備に伴う尼寺観音寺跡発掘調査業務に係る航空写真測量委託業務」として、令和3年7月27日から令和4年1月20日の工期でワコウコンサルタント株式会社に再委託し実施した。航空写真測量は令和3年12月4日に実施し、その後、3回の校正を経て測量図面を完成させた。

令和3年12月6日に現地公開を行い、周辺住民14名の参加をいただいた。



写真2 現地公開風景

第3節 出土遺物等整理作業の経過

調査で出土した遺物は、コンテナ(28ℓ/箱)で11箱である。出土遺物は、須恵器、土師器、瓦器、瓦質土器、瓦、磁器、石製品等がある。

整理作業として、令和4年7月より遺物の注記、登録、土器の接合・補強・復元作業、出土遺物の実測、遺構・遺物実測図のトレース、遺物の写真撮影とその組版作業を行なった。

接合作業は、各遺構、各遺物包含層、検出した遺構面で行い、補強作業の後、土器や瓦類、石製品等の出土遺物の実測を行い、トレース作業ののち挿図作成を行った。土器は復元作業ののち、遺物撮影を実施した。各遺構と出土遺物の写真を選出し写真図版を作成した。以上の作業を経て、令和5年3月の報告書を刊行した。



写真3 出土遺物復元作業



写真4 出土遺物実測作業



写真5 デジタルトレース作業

第3章 調査の方法

第1節 地区割の設定 (図3)

調査区の地区割は、平面直角座標系(平成14年国土交通省告示第9号)第VI系を使用し、尼寺観音寺跡を網羅する北東隅に基点 ($X=-196,000\text{m}$ 、 $Y=-63,600\text{m}$) を設け、その点から大区画・小区画を設けて区割りを行った。大区画は基点をA1地点と定めて、西方向へ100mごとにB、C、D・・・、南方向に2、3、4・・・という軸を設定した1辺100m四方の区画で、北東隅の地区名を用いてA1、B2、C3などと呼称する。大区画の北東隅をa1地点として、そこから4mずつ西方向へb～y、南方向へ2～25とそれぞれの方向に25分割し、一辺4mの正方形区画を小区画とする。小区画は北東隅の地区名からa1区～y25区と呼称する。地区名は、大区画-小区画(A1-a1区)などで表す。今回の調査区では、第1調査区がF9、F10区、第2調査区がF10区、G9区、G10区の範囲内に相当する。

第2節 調査の手順

各調査区の重機による掘削は、県教育委員会の確認調査を参考に遺物包含層とされた第3層上面まで行った。その後、人力により第3層以下を掘削し、遺構の検出及び掘削を行った。遺構内埋土は、堆積状況が確認できるように半截し、土層断面を写真撮影及び実測して記録した後、完掘した。写真撮影は、各

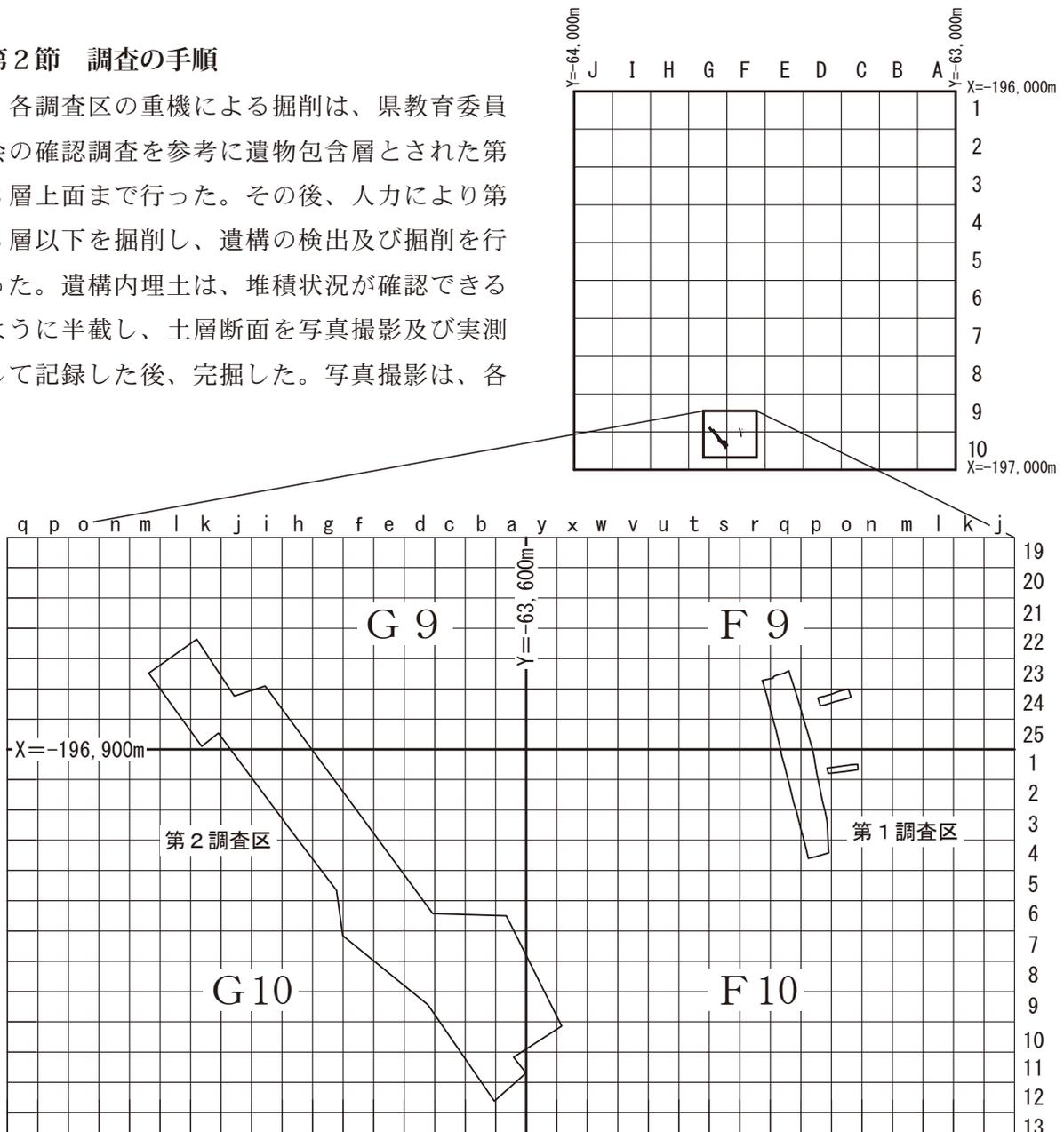


図3 地区割図

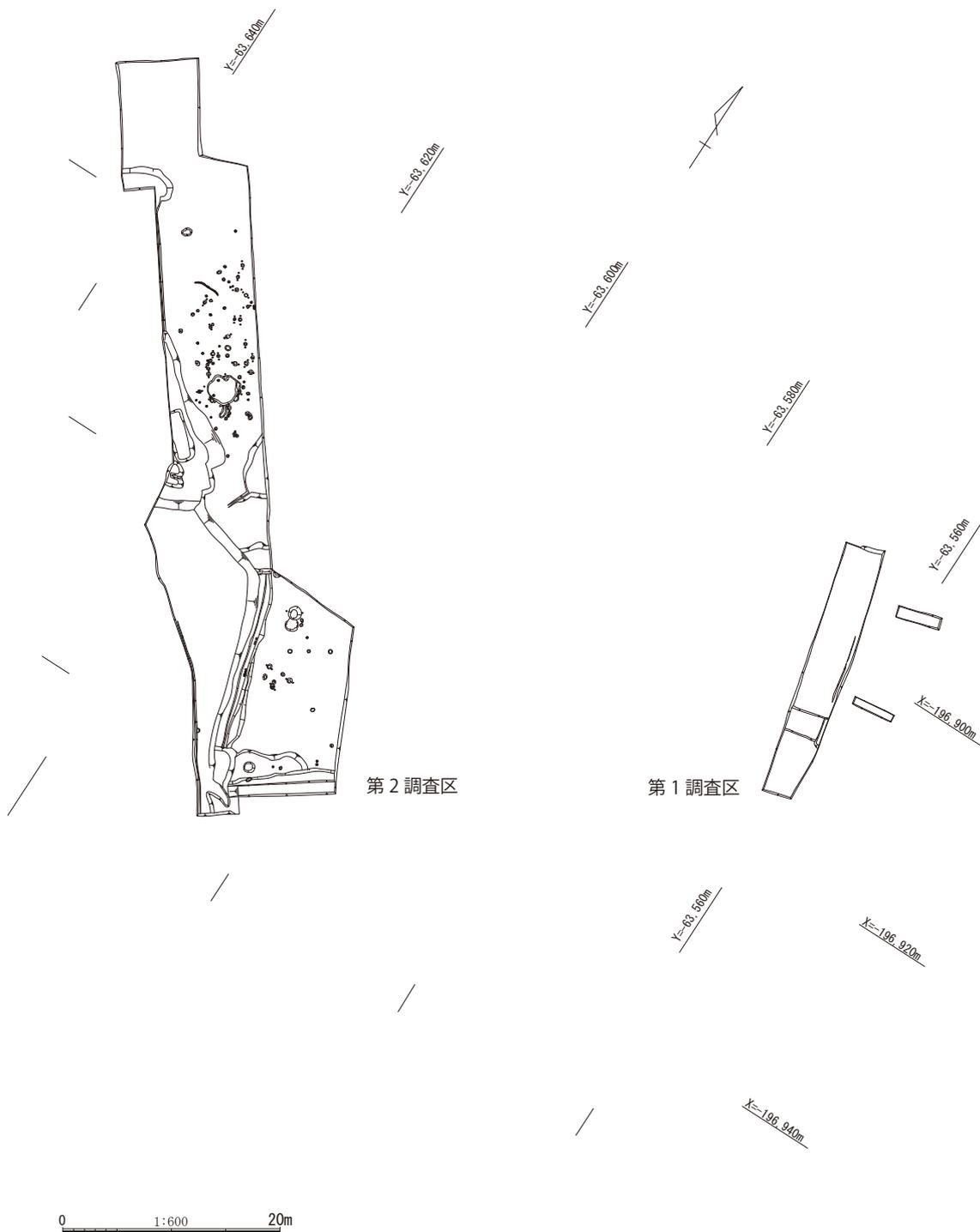


図 4 調査区 全体図 (S=1/600)

調査区全景については中判デジタルカメラを、各調査区全景及び土層断面、個別遺構の写真について35mmフルサイズデジタルカメラを用いて行った。実測作業については、全体図は第1・2調査区で航空測量による作図を縮尺1/50と1/100で行い、土層断面図と個別遺構図等については、縮尺1/20で手測りによって図化した。

調査以外の工程としては、第2調査区の発掘調査前に調査の支障となった北から南に流れる現行の用水路の移設に伴うポリエチレン排水管設置作業や市道・中21号線のコンクリート舗装の撤去や搬出、処分を行い、作業用ヤードの確保や搬出用ダンプカーの進入路の設置等に必要な発掘調査以外の雑作業を実施した。

第4章 調査成果

第1節 基本層序（図5）

今回の調査地における基本層序は、県教育委員会の確認調査を参考に次のように大別した。

第1層：10YR4/2灰黄褐色粘質シルト～シルトで、現代の耕作土。

第2層：10YR5/4～5/3にぶい黄褐色シルト～粘質土で、鉄分・マンガン粒を多く含む。現代の耕作土の床土。

第3層：10YR5/6～5/8黄褐色粘質土～7.5YR5/6明褐色粘質シルトで、径1～5mm大の礫や粗砂が混じる。下層である第4層につくられた耕作地を埋め戻した造成土と考えられる。中世以降の土器を多く含む。近現代の床土である第2層の直下で検出したことから、上部が近世以降に削平された可能性がある。遺物包含層。

第4層：10YR4/4褐色粘質シルト～10YR4/3にぶい黄褐色粘質土で、径1～3mmの礫や細砂、マンガン粒が混じる中世の耕作土である。地山である第5層上面で幅0.4～0.6mの畝状の高まりをつくり出し、高まりと高まりの間（図10の9・17層）は2.8～3.5m前後である。中世土器を多く含むことから中世段階で、第5層の地山層上面を削平して耕作地として造成したものと思われる。第2調査区南側では、須恵器の甕や甕口縁部、古代の布目瓦等が中世土器に混じって出土している。遺物包含層。

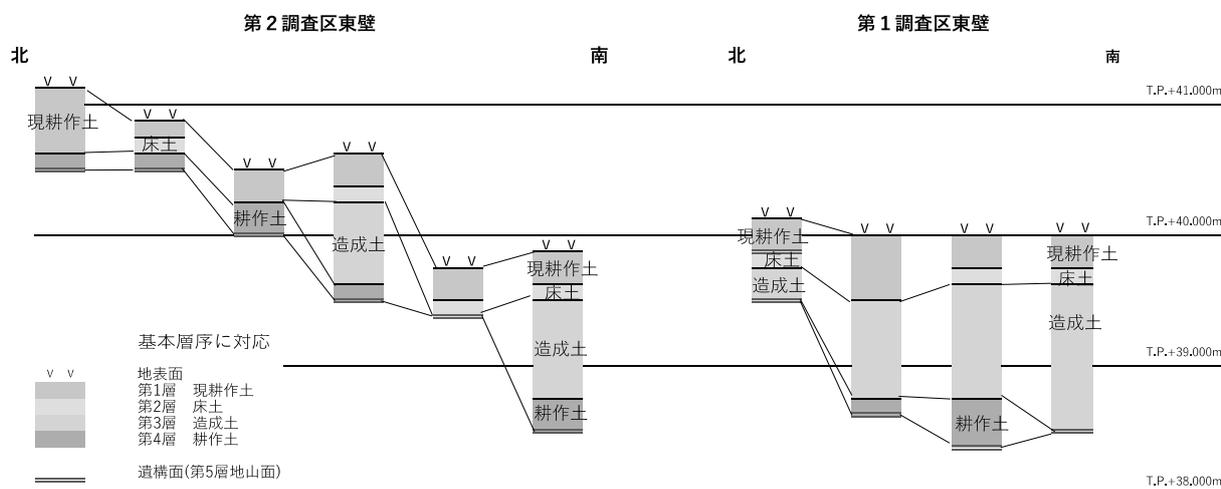


図5 土層断面柱状図

第5層：2.5YR6/4にぶい黄色粘質シルトで、無遺物層である地山層であるとともに、その上面で中世の掘立柱建物跡や土坑が確認された遺構面である。第1・2調査区は、ともに北から南に向かって傾斜しており、貴志川の支流である丸田川に河岸段丘の自然地形に従って傾斜している。第1調査区北側においては北西から南東に流れる自然流路によって地山面が削られて形成された微高地を確認した。

第2節 調査の成果

東側の調査区を第1調査区、西側の調査区を第2調査区として発掘調査を実施した。

1. 第1調査区の調査成果 (図6～8 写真図版1～3・10)

第1調査区は、東の棚田と西の一段下がった棚田が調査対象であったが、東の耕作地部分の遺構面 (T. P. +38.8～39.3m) の検出より西の耕作地部分の現地表面が低く、西の棚田部分については、遺構が残存しない可能性が高かったことから、全面的な発掘調査ではなく、東西方向の確認トレンチ2ヶ所を設定・掘削して、遺構面の有無、遺物包含層の堆積状況を確認した。確認トレンチにおいて、現代の耕作土と床土の直下層が地山面であり、T. P. +38.8～38.9mで検出した。

第1調査区では、中世段階に地山を削って造成してつくられた耕作地とそれを埋め立てた造成土を確認したが、その他の明確な遺構は確認できなかった。近世以降に埋め立てられた耕作地の痕跡が現地表面 (G. L.) から0.5～0.7mほど下で検出した。

自然流路 調査区北側のF9-q23～25で確認した。北西から南東に流れる自然流路と流路によって削られた、ごく低い微高地を確認した。自然流路の埋土は、10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルト～粘土と細砂の互層からなり、中層から下層に小礫や粗砂を含む粘質土が確認された。緩やかに水の流れた時期とほぼ停滞した時期があると思われる。

遺物 第3層造成土層と第4層耕作土層から、土師器や瓦器等の細片が出土した。第4層上面の検出時で摩耗した瓦器碗の底部 (1)、土師器盤 (2)、土師器釜または甕 (3～5) が出土した。自然流路内の砂礫を含む粘質シルト層から、土師器片が出土した。

2. 第2調査区の調査成果 (図9～19 写真図版4～10)

遺構 第2調査区の北側で中世の掘立柱建物跡2棟と柱穴群、土坑、南側で中世の柱穴跡、近世の溝1条を確認した。

01掘立柱建物跡 調査区北から中央のG10-g1～2・h1～2に位置する2間×3間の側柱建物である。この建物の柱穴のひとつである33柱穴は、径0.5m、深さ0.22mを測り、中央に柱根の痕跡がある。柱根跡は10YR6/4にぶい黄橙色粘質土、掘方は

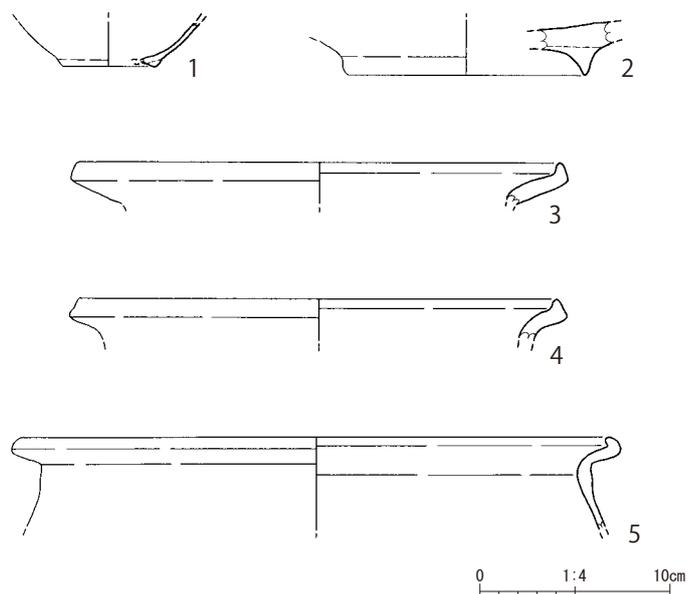
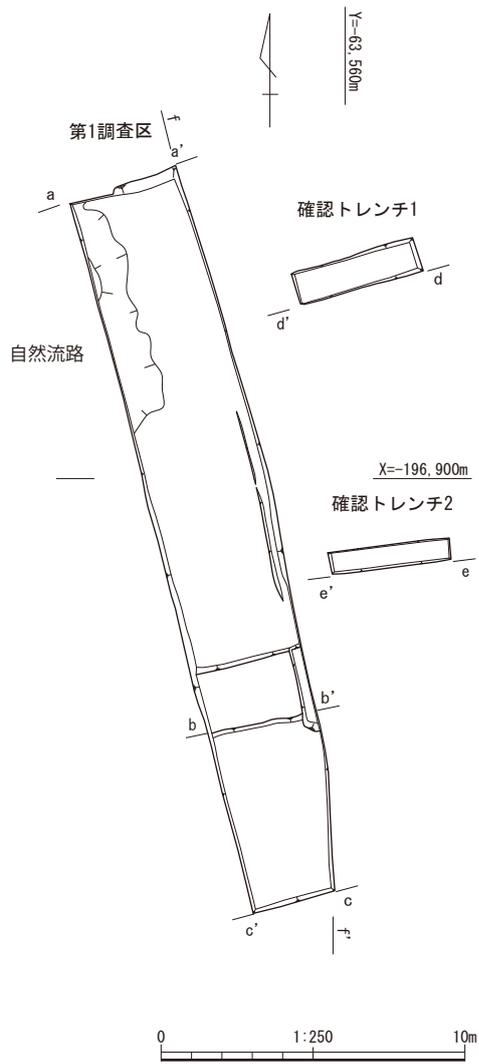
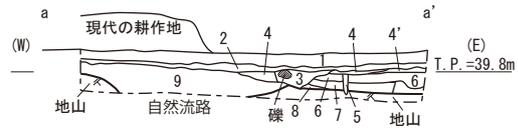


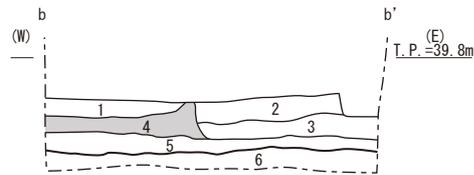
図6 第1調査区 第4層出土遺物実測図



調査区北壁

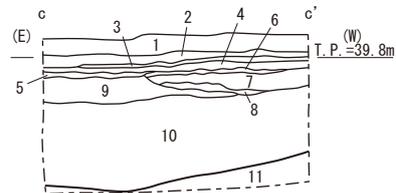


- 1 2.5Y4/3オリーブ褐シルト～細砂(耕作土)
- 2 2.5Y5/4黄褐シルト～細砂(旧耕作土)
- 3 2.5Y4/3オリーブ褐シルト～細～粗砂
片岩・瓦・磁器を含む(近世溝)
- 4 2.5Y5/6黄褐シルト～細砂
- 4' 2.5Y5/4黄褐粘質土 鉄分を含む
- 5 2.5Y6/4にぶい黄シルト～細砂
- 6 10YR6/6明黄褐粘質土 粗砂を含む
- 7 2.5Y5/6黄褐粘質シルト 細砂
- 8 10YR6/6明黄褐粘土～細砂 マンガンを少量含む
- 9 7.5YR6/8橙粘質土～風化礫を含む(自然流路)



- 1 10YR5/6黄褐粘質シルト+粗砂 φ1cm未満礫を多く含む
- 2 7.5YR6/8橙粘質シルト+粗砂 φ1cm未満礫を多く含む
- 3 10YR6/6明黄褐粘質シルト～粘質土+粗砂
φ3cm礫・焼土・炭を含む
- 4 10YR5/4にぶい黄褐粘質土+粗砂 φ2cm礫を含む(耕作土)
- 5 10YR6/6明黄褐粘質土+粗砂 φ3cm礫を多く含む
- 6 10YR7/6明黄褐粘質土+粗砂 φ10cm礫を多く含む
層状に堆積

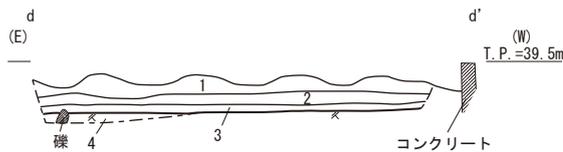
調査区南壁



- 1 10YR4/2灰黄褐シルト φ1cm礫を含む
- 2 2.5Y5/3黄褐シルト φ1cm礫を含む
- 3 2.5Y4/3オリーブ褐シルト マンガンを含む(床土)
- 4 10YR4/3にぶい黄褐粘質土 マンガン・φ1cm礫を含む
- 5 10YR5/4にぶい黄褐粘質シルト φ1cm礫・風化礫を含む
- 6 10YR5/3にぶい黄褐粘質シルト 炭・φ0.5cm風化礫を含む
- 7 10YR5/4にぶい黄褐粘土～シルト+粗砂 φ1cm礫を含む
- 8 10YR5/3にぶい黄褐粘質シルト φ1cm 礫を含む
- 9 2.5Y5/4黄褐粘質土～シルト φ0.5～1cm礫・土器・炭・細片を含む(造成土)
- 10 2.5Y5/3黄褐粘質土～シルト+粗砂 炭・土器片を含む(造成土)
- 11 7.5YR明褐土 φ1～10cm礫を含む

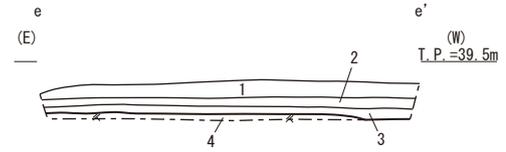
※ 耕作土

確認トレンチ1



- 1 2.5Y4/3オリーブ褐シルト (現代耕作土)
- 2 2.5Y5/3黄褐シルト (現代耕作土)
- 3 2.5Y5/4黄褐シルト 鉄分沈着(床土)
- 4 2.5Y4/4褐粘質シルト マンガン沈着
φ1～10cm礫多く含(地山)

確認トレンチ2



- 1 2.5Y4/3オリーブ褐シルト (現代耕作土)
- 2 2.5Y5/3黄褐シルト (現代耕作土)
- 3 2.5Y5/4黄褐シルト 鉄分沈着(床土)
- 4 2.5Y4/4褐粘質シルト マンガン沈着
φ1～10cm礫多く含(地山)

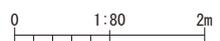
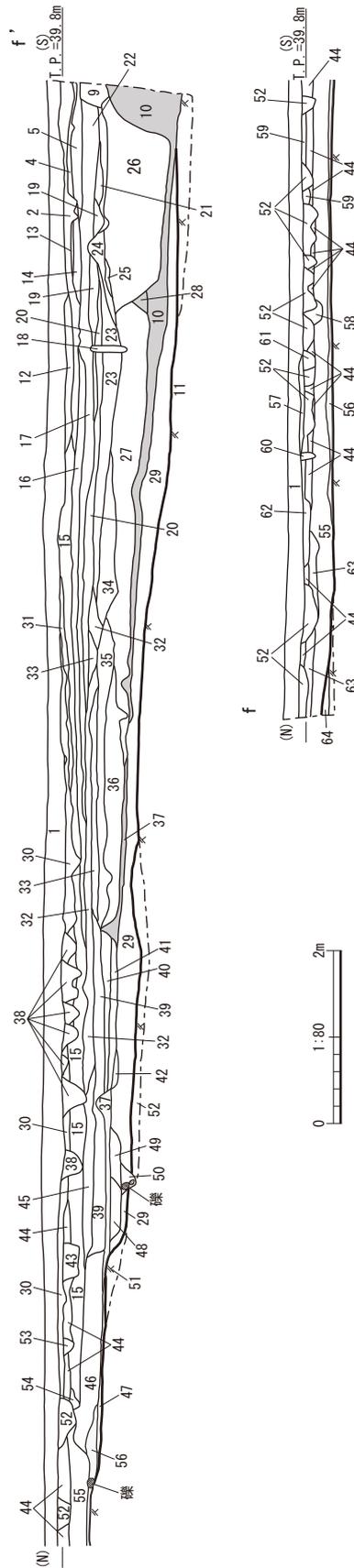


図7 第1調査区 平面図 (S=1/250)・土層断面図 (S=1/80)

東壁



- | | | | | | |
|----|---------------------------------------------------|----|-----------------------------------|----|------------------------------------|
| 1 | 10VR4/2 灰黄褐シルト φ1cm 礫含む | 21 | 10VR5/3 にぶい黄褐粘質シルト (地山) | 41 | 2.5V5/3 黄褐シルト 粗砂含む |
| 2 | 2.5V5/3 黄褐シルト φ1cm 礫含む | 22 | 10VR5/6 黄褐粘質シルト | 42 | 10VR5/6 黄褐粘質土 φ1cm 礫多く含む |
| 4 | 10VR4/3 にぶい黄褐粘質土
マンガン・φ1cm 礫含む | 23 | 10VR5/6 黄褐粘質土 粗砂多く含む | 43 | 2.5V6/3 にぶい黄シルト |
| 5 | 10VR5/4 にぶい黄褐粘質シルト
マンガン・φ1cm 礫・風化礫含む | 24 | 10VR4/2 灰黄褐シルト | 44 | 2.5V6/3 にぶい黄シルト φ1cm 礫含む |
| 9 | 2.5V5/4 黄褐粘質土 φ0.5~1cm 礫含む
土器・炭細片・φ0.5~1cm 礫含む | 25 | 10VR5/3 にぶい黄褐粘質土 φ2~3cm 礫含む | 45 | 10VR5/6 黄褐粘質土 細砂含む |
| 10 | 2.5V5/3 黄褐粘質土シルト | 26 | 10VR5/4 にぶい黄褐粘質土 φ1~5cm 礫含む | 46 | 10VR4/3 にぶい黄褐粘質土
粗砂・φ1~10cm 礫含む |
| 11 | 7.5VR5/6 明褐土 φ1~10cm 礫含む (地山) | 27 | 10VR5/6 黄褐粘土 φ1~5cm 礫含む | 47 | 10VR5/4 にぶい黄褐シルト 粗砂含む |
| 12 | 10VR5/4 にぶい黄褐粘質シルト | 28 | 10VR4/3 にぶい黄褐粘質土 | 48 | 10VR5/6 黄褐粘質土シルト含む |
| 13 | 10VR4/6 黄褐粘質土 マンガン含む | 29 | 10VR4/4 褐粘土 粗砂含む | 49 | 10VR5/6 黄褐粘質土 粗砂多く含む |
| 14 | 10VR4/6 黄褐粘質土 マンガン含む | 30 | 2.5V6/4 にぶい黄シルト | 50 | 10VR4/4 褐粘質土 粗砂 φ10cm 礫含む |
| 15 | 10VR6/6 明黄褐粘質土 φ1cm 礫含む | 31 | 2.5V6/3 にぶい黄シルト | 51 | 10VR5/6 黄褐粘質土 (地山) |
| 16 | 10VR4/6 褐粘質土 粗砂含む | 32 | 10VR6/4 にぶい黄褐粘質シルト 粗砂含む | 52 | 2.5V6/3 にぶい黄シルト 粗砂含む (地山) |
| 17 | 10VR5/6 黄褐粘質土 粗砂含む | 33 | 10VR4/4 褐粘質土 粗砂~細砂含む | 53 | 2.5V6/2 灰黄シルト |
| 18 | 10VR4/3 にぶい黄褐粘質シルト | 34 | 10VR5/3 にぶい黄褐粘質土
粗砂・φ1cm 礫多く含む | 54 | 2.5V6/2 灰黄シルト 粗砂含む |
| 19 | 10VR4/3 にぶい黄褐粘質シルト | 35 | 10VR4/4 褐粘質土 粗砂・φ1cm 礫多く含む | 55 | 10VR6/6 明黄褐粘質土 粗砂含む |
| 20 | 10VR5/8 黄褐粘質シルト 粗砂・φ1~2cm 礫含む | 36 | 10VR5/6 黄褐粘質土 粗砂・φ1cm 礫含む | 56 | 10VR6/4 にぶい黄褐シルト
φ1~5cm 礫多く含む |
| | | 37 | 10VR4/4 褐粘質土 粗砂・φ1cm 礫含む | 57 | 2.5V6/2 灰黄シルト |
| | | 38 | 2.5V6/3 にぶい黄シルト | 58 | 10VR6/6 明黄褐粘質シルト 粗砂含む |
| | | 39 | 10VR4/4 褐粘質土 φ1cm 礫多く含む | 59 | 10VR6/2 灰黄褐シルト |
| | | 40 | 10VR4/6 褐粘質シルト 粗砂含む | 60 | 10VR6/4 にぶい黄褐粘質シルト |
| | | | | 61 | 10VR6/4 にぶい黄褐粘質シルト |
| | | | | 62 | 2.5V6/3 にぶい黄シルト |
| | | | | 63 | 10VR5/6 黄褐粘質土 粗砂含む |
| | | | | 64 | 2.5V5/6 黄褐粘質シルト 細砂含む (地山) |

※ 耕作土

※3・6 ~ 8層については、図7北壁土層断面図にあり

図8 第1調査区 東壁土層断面図 (S=1/80)

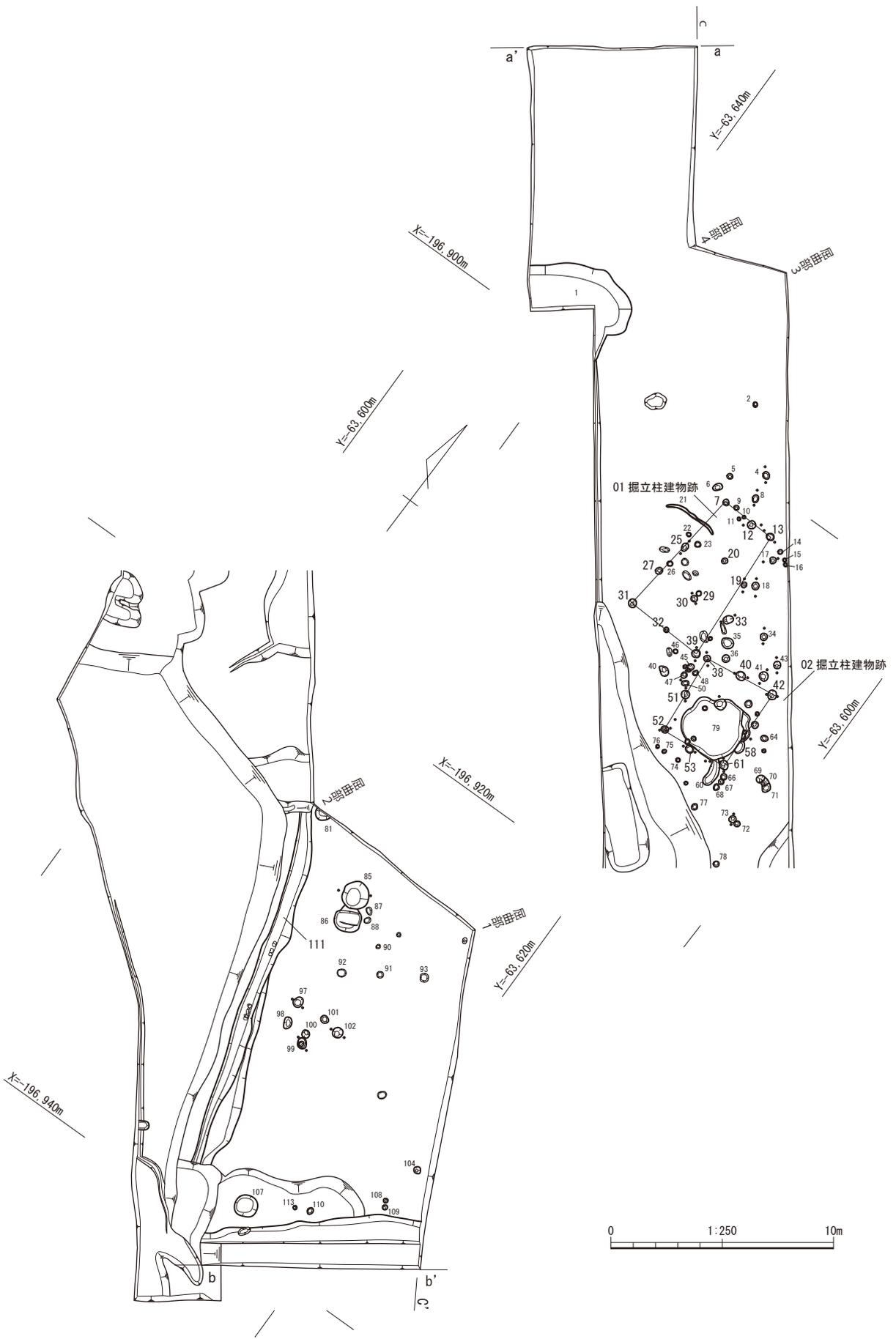


図9 第2調査区 平面図 (S=1/250)

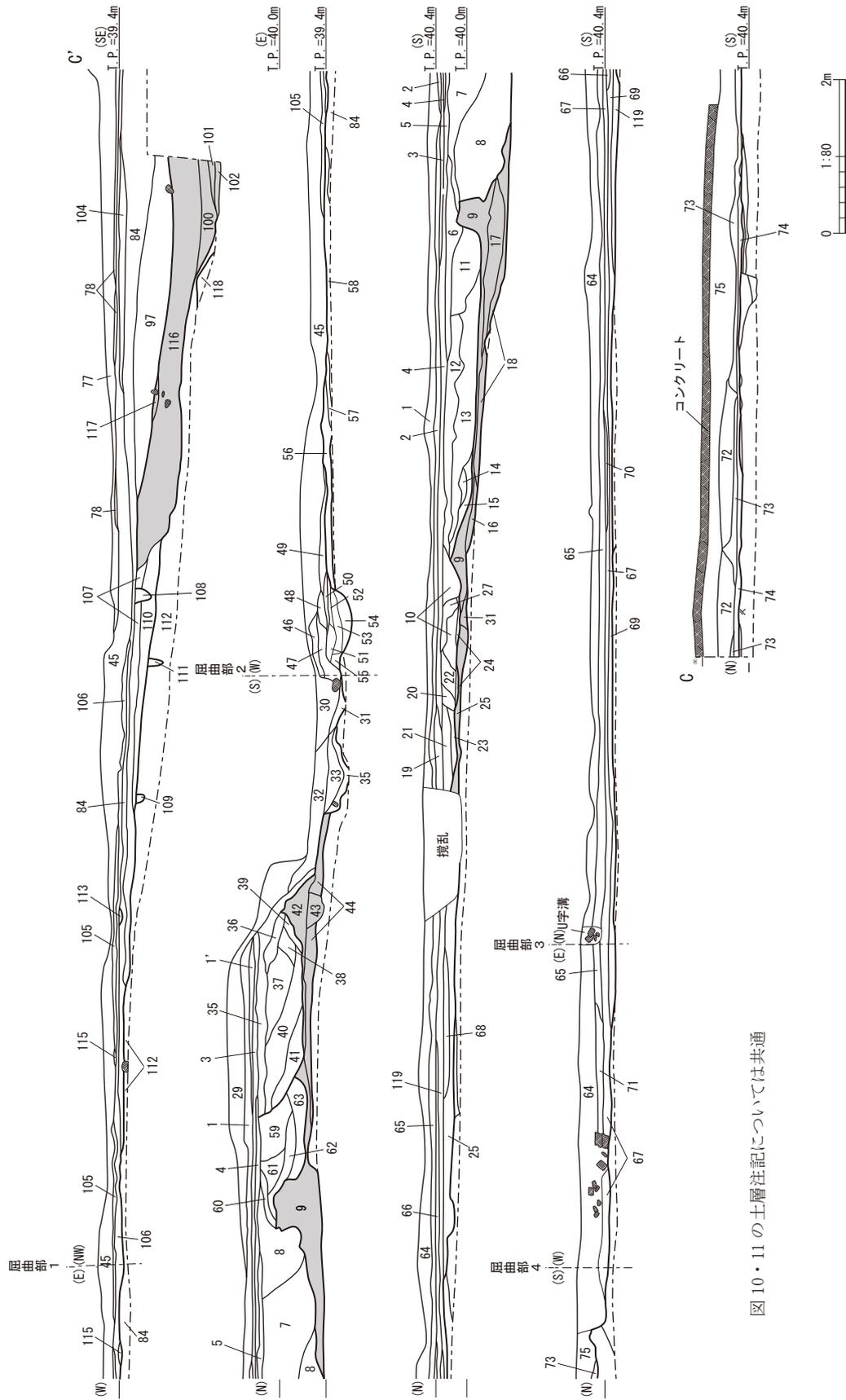
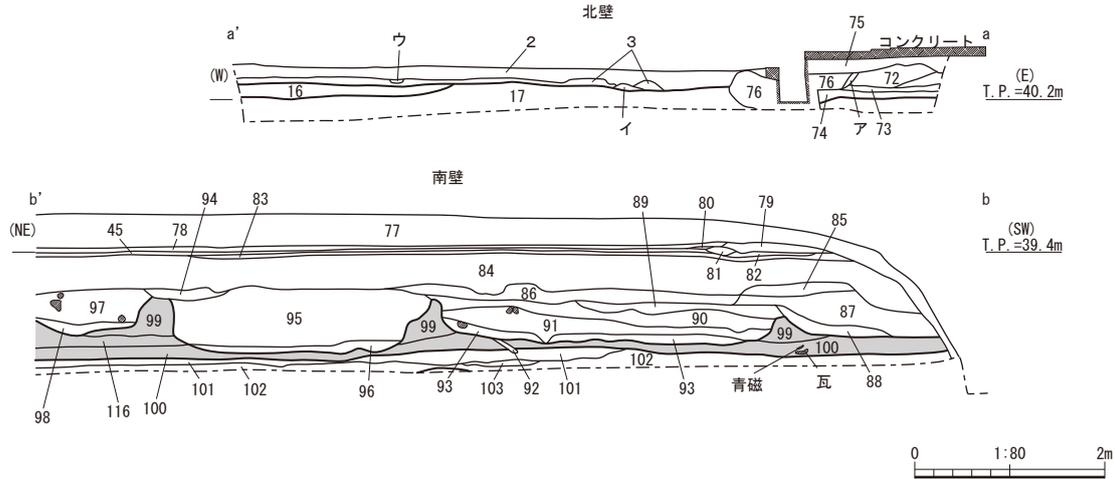


図 10・11 の土層注記については共通

図 10 第 2 調査区 東壁土層断面図 (S=1/80)



北壁

- 2 2.5Y5/4 黄褐粘質シルト
- 3 10YR5/4 にぶい黄褐粘質シルト
- 16 10YR4/3 にぶい黄褐粘質土 風化礫含む
- 17 10YR5/6 黄褐粘質土 細砂・風化礫含む
- ア 7.5YR4/4 褐粘質シルト
- イ 10YR6/6 明黄褐粘質土
- ウ 10YR5/4 にぶい黄褐粘質土 細砂含む
- 72 7.5YR6/6 明黄褐粘質土 細～粗砂
φ1～3cm 礫・風化礫含む
- 73 7.5YR6/8 橙粘質シルト
- 74 10YR5/6 黄褐粘質シルト 上部に鉄分含む
- 75 7.5YR5/6 明黄褐粘質土 細砂含む
φ1～3cm 礫多く含む
- 76 2.5Y6/4 にぶい黄粘質シルト
粗砂・礫・ゴム片含む

南壁

- 45 2.5Y4/2 暗灰黄粘質シルト
- 77 2.5Y4/2 暗灰黄粘質シルト
- 78 10YR5/4 にぶい黄褐粘質土
- 79 10YR4/3 にぶい黄褐粘質土 細～粗砂・φ1cm 礫含む
- 80 2.5Y4/3 オリーブ褐粘質土 細砂含む
- 81 10YR4/3 にぶい黄褐粘質土 細砂含む
- 82 10YR4/4 褐粘質シルト 細砂・φ1～2cm 礫含む
- 83 2.5Y4/4 オリーブ褐粘質土 細砂含む
- 84 10YR4/3 にぶい黄褐粘質土 細砂・φ1～5cm 礫含む
- 85 7.5Y4/6 褐粘質土 細砂含む
φ1～3cm 礫少量含む
- 86 10YR5/6 黄褐粘質土 細～粗砂含む
φ1～2cm 礫少量含む
- 87 10YR6/8 明黄褐粘質シルト
細～粗砂・φ1～2cm 礫含む
- 88 7.5YR5/6 明黄褐粘質土 粗砂・φ5cm 礫含む
- 89 10YR5/6 黄褐粘質土 粗砂・風化礫含む
- 90 10YR5/6 黄褐粘質シルト
粗砂・φ1cm 礫・風化礫含む

- 91 10YR5/8 黄褐粘質シルト
粗砂・φ2cm 礫・風化礫含む
- 92 10YR6/4 にぶい黄粘質シルト
- 93 7.5YR6/8 橙粘質シルト φ1～2cm 礫含む
- 94 10YR4/4 褐色土 細～粗砂含む
φ1～15cm 礫多く含む
- 95 7.5YR5/6 明黄粘質土 細～粗砂
φ2～10cm 礫・風化礫含む
- 96 7.5YR6/8 橙粘質シルト 粗砂少量含む
- 97 7.5YR5/6 明黄粘質シルト
細～粗砂・φ1～5cm 礫やや多く含む
- 98 7.5YR5/6 明黄粘質土 細～粗砂・φ1cm 礫含む
- 99 10YR5/3 にぶい黄褐色粘質シルト 粗砂含む
- 100 10YR5/3 にぶい黄褐色粘質シルト 細砂～粗砂含む
- 101 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質シルト 粗砂含む
- 102 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質シルト
- 103 10YR4/4 褐色粘質シルト
- 116 10YR4/4 褐色土 粗砂含む

東壁

- 1 10YR4/2 灰黄褐粘質シルト
- 1' 2.5Y5/4 黄褐シルト
- 2 2.5Y5/2 黄褐粘質シルト
- 3 7.5YR4/4 褐粘質シルト
- 4 10YR5/4 にぶい黄褐粘質シルト
マンガン・鉄分含む
- 5 10YR5/4 にぶい黄褐粘質シルト
マンガン・礫含む
- 6 7.5YR5/4 にぶい褐粘質シルト
- 7 10YR5/6 黄褐粘質土 粗砂含む
- 8 10YR5/8 黄褐粘質シルト
粗砂・φ1～5cm 礫含む
- 9 10YR4/4 褐粘質シルト
- 10 10YR6/4 にぶい黄褐粘質土
細砂・マンガン含む・鉄分少量含む
- 11 10YR5/8 黄褐粘質土 細砂含む
- 12 10YR6/6 明黄褐粘質シルト
細砂・風化礫含む
- 13 10YR6/8 明黄褐粘質シルト
細砂・風化礫含む
- 14 10YR5/6 黄褐粘質シルト
- 15 10YR5/4 にぶい黄褐粘質シルト
粗砂・鉄分少量含む
- 16 10YR5/4 にぶい黄褐粘質シルト
- 17 10YR5/4 にぶい黄褐粘質シルト
マンガン粒少量含む
- 18 10YR5/4 にぶい黄褐粘質土
マンガン粒含む
- 19 10YR5/3 にぶい黄褐粘質土
- 20 10YR6/4 にぶい黄粘質シルト
風化礫多く含む
- 21 10YR4/4 褐粘質シルト
- 22 10YR5/4 にぶい黄褐粘質シルト
マンガン・風化礫含む
- 23 10YR5/6 黄褐粘質シルト
マンガン含む・風化礫少量含む
- 24 10YR4/4 褐粘質土 粗砂含む
- 25 10YR5/4 にぶい黄褐粘質シルト
粗砂・風化礫含む
- 27 10YR5/8 黄褐粘質シルト 風化礫含む
- 29 10YR4/2 灰黄褐シルト
- 30 2.5Y4/3 オリーブ褐粘質土
φ2～3cm 礫含む
- 31 2.5Y4/2 暗灰黄粘質土 細砂含む
- 32 2.5Y4/3 オリーブ褐粘質土
φ3～5cm 礫含む

- 33 2.5Y4/3 オリーブ褐粘質土
細～粗砂含む
- 35 10YR5/4 にぶい黄褐粘質土
上部にマンガン・φ3cm 礫・風化礫含む
- 36 7.5YR6/8 橙粘質シルト
マンガン少量含む・風化礫含む
- 37 7.5YR6/6 橙粘質シルト 風化礫含む
- 38 7.5YR6/8 橙粘質シルト 粗砂含む
- 39 7.5YR6/8 橙粘質シルト
風化礫やや多く含む
- 40 7.5YR5/6 明黄粘質シルト
礫・風化礫多く含む
- 41 7.5YR5/6 明黄粘質土 粗砂・風化礫含む
- 42 10YR4/3 にぶい黄褐粘質土
φ1～2cm 礫少量含む
- 43 10YR6/4 にぶい黄褐粘質シルト
- 44 2.5Y5/6 黄褐粘質シルト
- 45 2.5Y4/2 暗灰黄粘質シルト
- 46 2.5Y5/4 黄褐粘質シルト φ1cm 風化礫含む
- 47 10YR5/4 にぶい黄褐粘質シルト φ1cm 礫含む
- 48 10YR5/4 にぶい黄褐粘質シルト 粗砂含む
- 49 7.5YR5/4 にぶい褐粘質土 鉄分含む
- 50 10YR5/3 にぶい黄褐粘質シルト φ1cm 礫含む
- 51 10YR4/4 褐粘質シルト 粗砂～φ1cm 礫含む
- 52 10YR4/3 にぶい黄褐粘質シルト 粗砂含む
- 53 10YR6/6 明黄褐粘質シルト マンガン含む
風化礫多く含む
- 54 10YR6/6 明黄粘質シルト
- 55 2.5Y5/4 黄褐粘質シルト 鉄分含む
- 56 10YR4/6 褐粘質シルト マンガン・鉄分含む
- 57 10YR6/3 にぶい黄粘質シルト
マンガン・鉄分含む
- 58 10YR5/3 にぶい黄褐粘質シルト
- 59 10YR4/6 褐粘質土
- 60 10YR4/4 褐粘質シルト 粗砂含む
- 61 10YR5/6 黄褐粘質シルト
- 62 7.5YR5/6 明黄粘質シルト
- 63 7.5YR5/6 明黄粘質シルト 風化礫含む
- 64 10YR4/6 褐粘質土 粗砂・φ2～10cm 礫含む
風化礫多く含む
- 65 2.5Y4/3 オリーブ褐粘質土 細砂含む
10YR4/2 灰黄褐シルト混じる
- 66 10YR5/4 にぶい黄褐粘質シルト
- 67 2.5Y5/4 黄褐粘質シルト マンガン粒含む

- 68 10YR5/4 黄褐粘質土 細砂含む
- 69 10YR4/4 褐粘質土 細砂含む
- 70 10YR5/4 黄褐粘質シルト
- 71 10YR5/6 黄褐粘質シルト
上部にマンガン・風化礫含む
- 72 7.5YR6/6 橙粘質土 細～粗砂
φ1～3cm 礫・風化礫含む
- 73 7.5YR6/8 橙粘質シルト
- 74 10YR5/6 黄褐粘質シルト 上部に鉄分含む
- 75 7.5YR5/6 明黄粘質土 細砂含む
φ1～3cm 礫多く含む
- 77 2.5Y4/2 暗灰黄粘質シルト
- 78 10YR5/4 にぶい黄褐粘質シルト
- 84 10YR4/3 にぶい黄褐粘質土 細砂
φ1～5cm 礫含む
- 97 7.5YR5/6 明黄粘質シルト 細～粗砂含む
φ1～5cm 礫やや多く含む
- 100 10YR5/3 にぶい黄褐粘質土 細～粗砂含む
φ1～10cm 礫多く含む
- 101 10YR4/3 にぶい黄褐粘質土 粗砂
φ1～3cm 礫含む
- 102 10YR4/3 にぶい黄褐粘質シルト 粗砂含む
- 103 10YR4/4 褐粘質シルト
- 104 10YR7/4 にぶい黄粘質シルト + 鉄分
- 105 10YR5/4 にぶい黄褐粘質シルト + 細砂 + 鉄分
- 106 10YR5/4 にぶい黄褐粘質シルト + マンガン
- 107 2.5Y6/4 にぶい黄粘質シルト + マンガン
- 108 10YR5/6 黄褐粘質シルト + 細砂
- 109 10YR5/3 にぶい黄褐粘質シルト
- 110 2.5Y6/4 にぶい黄粘質シルト
- 111 10YR5/3 にぶい黄褐粘質シルト
- 112 2.5Y6/4 にぶい黄粘質シルト
- 113 7.5YR5/6 明黄粘質土 + 細砂 + 鉄分 + マンガン
- 114 10YR5/3 にぶい黄褐粘質シルト + 細砂 + 鉄分 + マンガン
- 115 10YR5/3 にぶい黄褐粘質土 + 細砂 + 鉄分 + マンガン
- 116 10YR4/4 褐色土 + 粗砂 礫 φ1～5mm・風化礫
- 117 7.5YR5/8 明黄粘質シルト + 地山ブロック + 風化礫
- 118 2.5Y6/4 にぶい黄粘質シルト + 細～粗砂
- 119 10YR4/6 褐色土 + 砂礫含む

図 11 第 2 調査区 北壁・南壁土層断面図 (S=1/80)

10YR5/4にぶい黄褐色粘質シルトである。33柱穴の掘方の埋土から13世紀の中国製青磁碗の底部片(55)が出土した。その他の柱穴からは、土師器の細片が出土しているが、詳しい時期は不明である。建物を構成する柱穴は、いずれも径0.3~0.45m、深さ0.15~0.2mと浅い柱穴である。掘立柱建物等の集落関連遺構が廃絶した後の耕作地の造成の際に、柱穴の上部は削平されたものと思われる。

02掘立柱建物跡 調査区北から中央のG10-g2~3・f2~3に位置する。2間×2間の側柱建物跡である。建物を構成する柱穴は、いずれも径0.3~0.4m、深さ0.1~0.2mと浅く、掘立柱建物跡等の集落関連遺構が廃絶した後の耕作地の造成の際に、柱穴の上部は削平されたものと思われる。掘立柱建物跡の検出した遺構面である地山面が南に向かって傾斜していることから、南側がより深く削平された可能性がある。後述の炭を含む79土坑を囲むように建物が存在したことから、平地式建物の床の一部である可能性がある。

79土坑 調査区北から中央のG10-g2~3に位置する。T.P.+39.0~39.8mで検出した。平面形がやや歪な隅丸方形を呈する浅い土坑で、東西2.8m、南北2.65m、深さ0.19mである。中央部が円形にやや窪んでおり、その周辺で拳大の川原石が複数検出した。室町時代頃の土師器皿(13~15)、土師器羽釜片(18・19)が底部で出土した。埋土は10YR6/4にぶい黄橙色~10YR5/3にぶい黄褐色粘質シルトに細砂~粗砂が混じり、炭化物をやや多く含む。先述の02掘立柱建物がこの土坑を囲むように確認されたことから、平地式建物跡の床の一部の可能性はある。掘立柱建物跡等の集落関連遺構が廃絶した後の耕作地の造成の際に、土坑の上部は削平されたものと思われる。

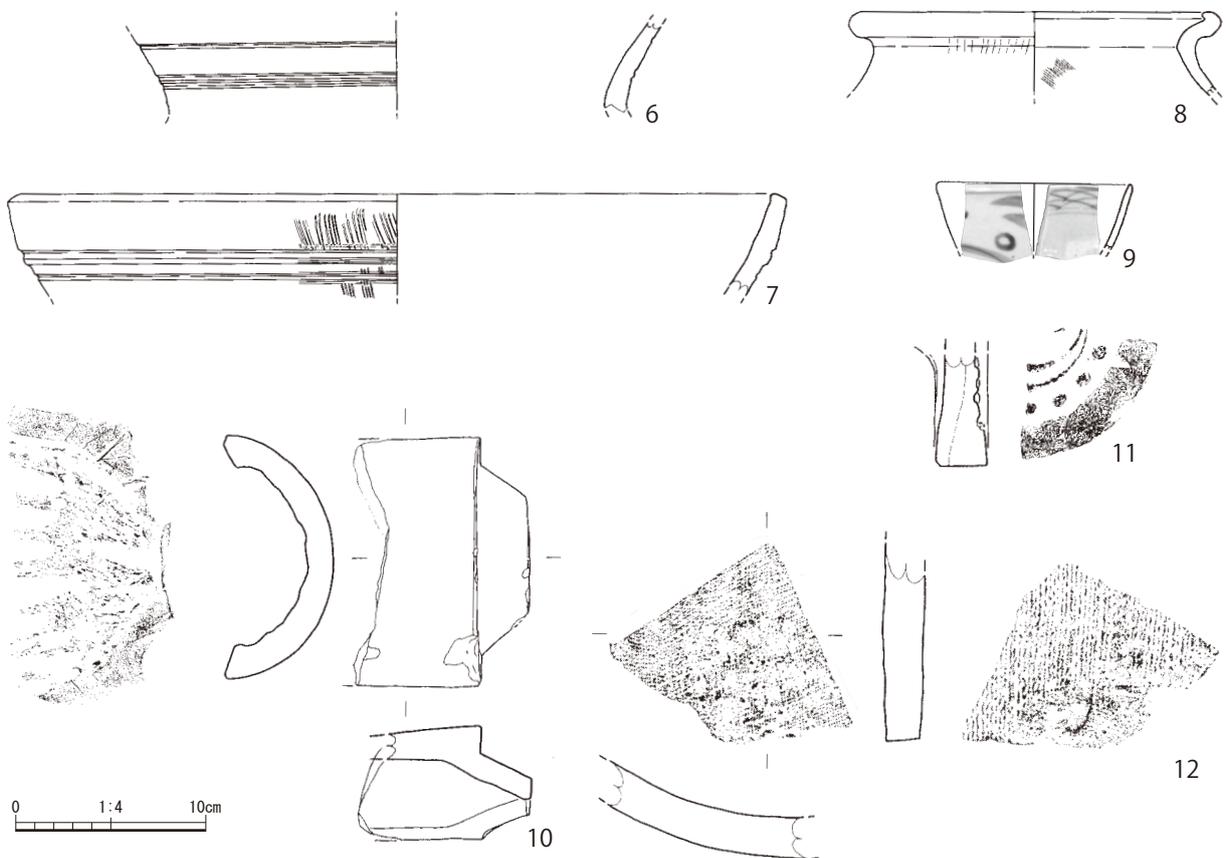
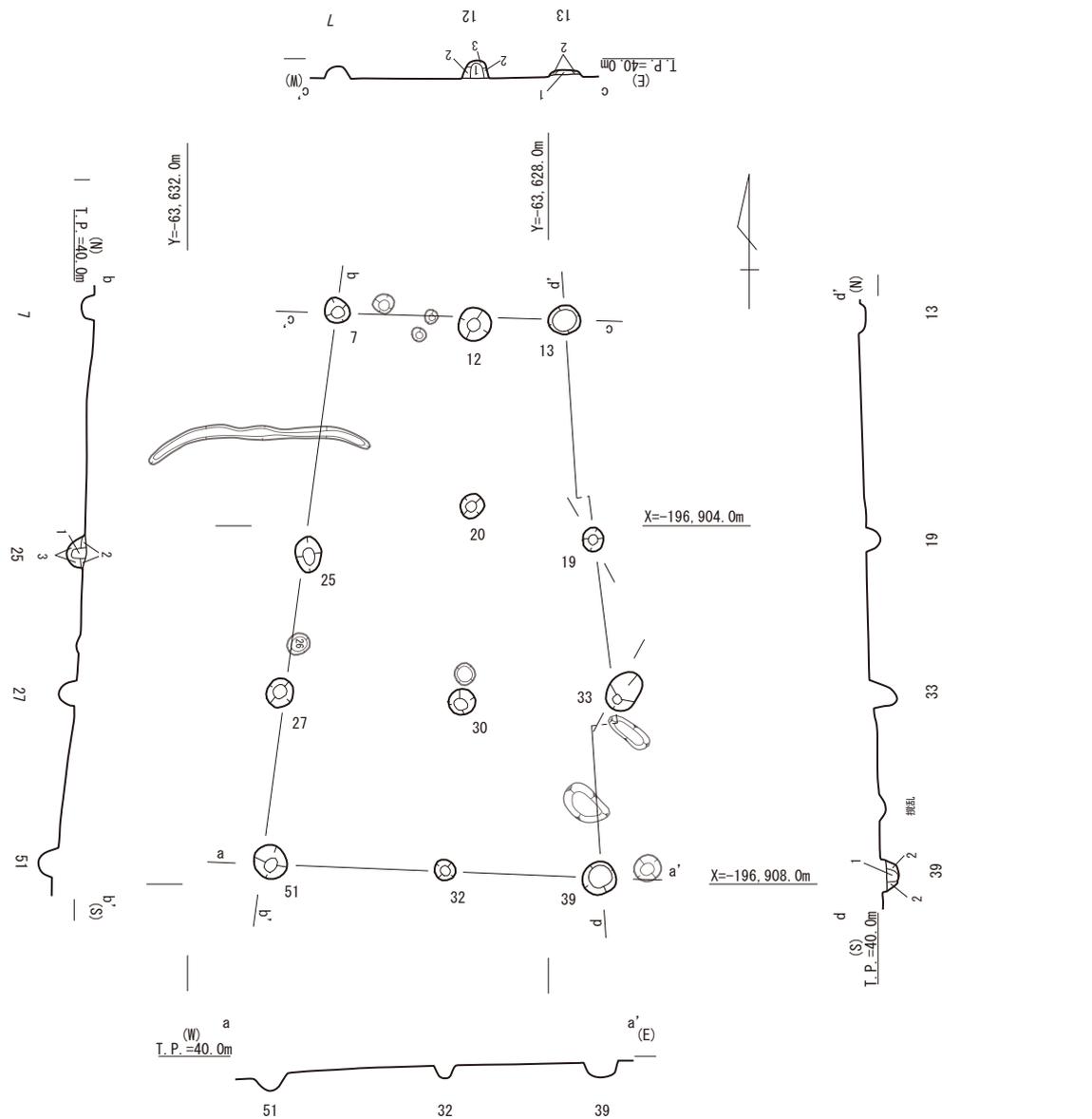


図12 第2調査区 第1・2層出土遺物実測図



12柱穴

- 1 10YR5/2灰黄褐粘質土 上部にマンガンを多く含む(柱根)
- 2 10YR5/4にぶい黄褐粘質シルト+粗砂 マンガンを少量含む(掘方)
- 3 10YR4/6褐粘質シルト(掘方)

13柱穴

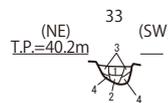
- 1 10YR6/6明黄褐粘質シルト(柱根)
- 2 10YR5/4にぶい黄褐粘質シルト 地山ブロックを含む(掘方)

25柱穴

- 1 10YR5/6黄褐粘質土 細砂・炭を含む(柱根)
- 2 10YR6/6明黄褐粘質土 シルト・炭を含む(掘方)
- 3 10YR6/4にぶい黄橙粘質土 細砂を含む(掘方)

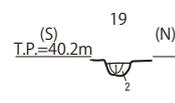
39柱穴

- 1 10YR5/4にぶい黄褐粘質シルト 細砂・炭を含む(柱根)
- 2 10YR5/4にぶい黄褐粘質シルト 粗砂・礫・炭を含む(掘方)



33柱穴

- 1 10YR5/4にぶい黄褐粘質シルト 粗砂・炭を含む(柱根)
- 2 10YR5/4にぶい黄褐粘質土 細~粗砂・炭を含む(柱根)
- 3 10YR6/4にぶい黄橙粘質土 粗砂・炭を含む(掘方)
- 4 10YR6/3にぶい黄橙粘質シルト 粗砂を含む(掘方)



19柱穴

- 1 10YR5/4にぶい黄褐シルト 炭・マンガンを含む(柱根)
- 2 10YR4/6褐粘質土 炭・マンガンを含む(掘方)

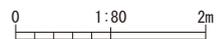
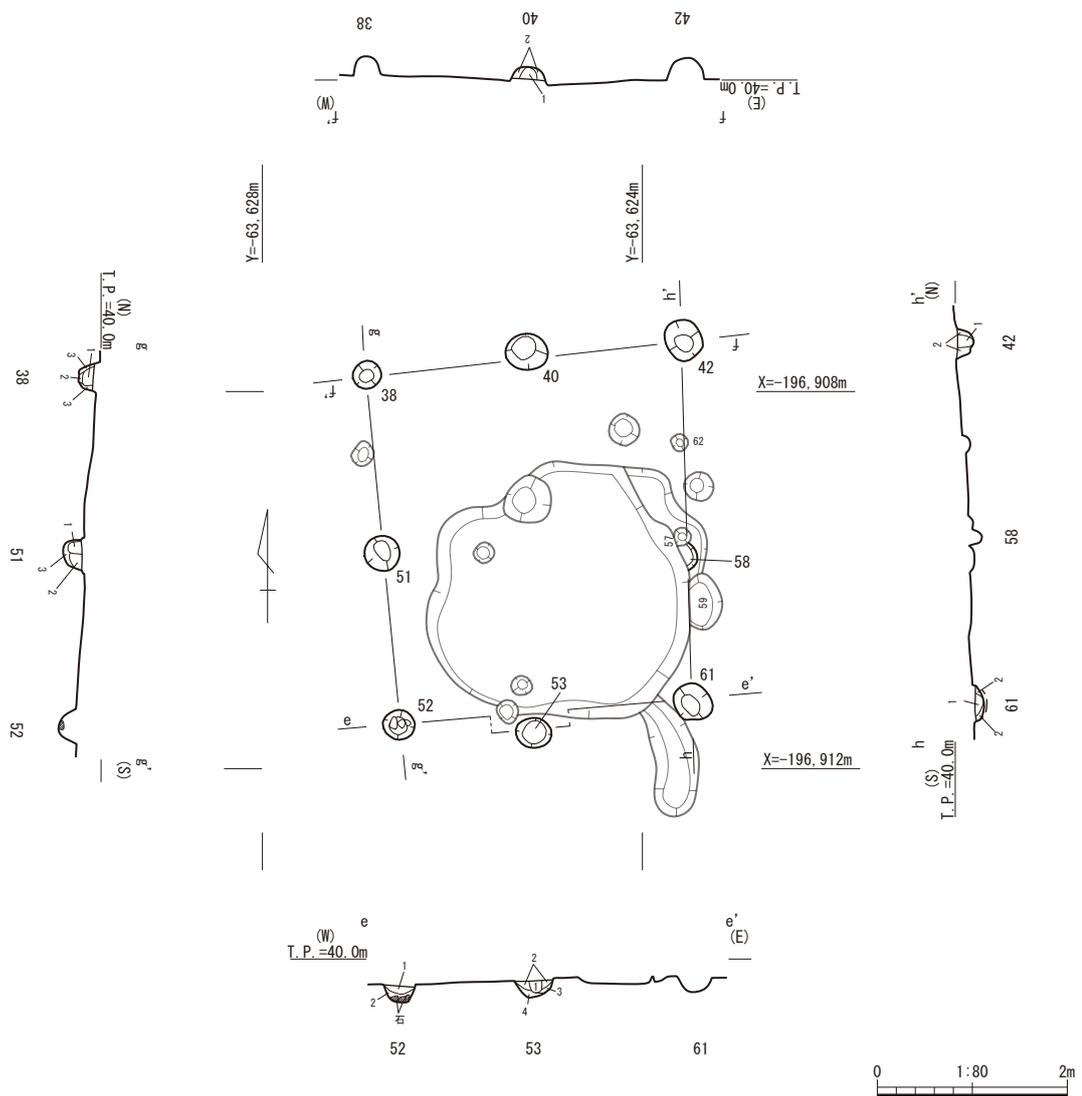


図 13 掘立柱建物跡 平面図・土層断面図 (S=1/80)



38柱穴

- 1 10YR5/4にぶい黄褐粘質土 粗砂・炭を含む(柱根)
- 2 10YR6/4にぶい黄橙粘質シルト(掘方)
- 3 10YR5/4にぶい黄褐粘質土 炭を含む(掘方)

40柱穴

- 1 10YR5/4にぶい黄褐粘質シルト+細~粗砂・炭を含む(柱根)
- 2 10YR6/4にぶい黄橙粘質土 炭を含む(掘方)

42柱穴

- 1 10YR4/4褐粘質土 シルトを含む(柱根)
- 2 10YR5/4にぶい黄褐粘質土 細砂・マンガンを含む(掘方)

51柱穴

- 1 10YR5/6黄褐粘質シルト
- 2 10YR5/4にぶい黄褐粘質土 炭を含む

52柱穴

- 1 10YR5/3にぶい黄褐粘質土 混細~粗砂 炭・マンガンを含む
- 2 10YR4/3にぶい黄褐粘質シルト

53柱穴

- 1 10YR4/3にぶい黄褐粘質シルト 粗砂含む(柱根)
- 2 10Y5/4にぶい黄褐粘質シルト(掘方)
- 3 10YR5/4にぶい黄褐粘質シルト 細砂含む(掘方)
- 4 10YR5/6黄褐粘質シルト マンガンを含む(掘方)

61柱穴

- 1 2.5Y5/4黄褐粘質シルト 炭・マンガンを含む(柱根)
- 2 10YR6/4にぶい黄橙粘質シルト マンガン・須恵器片を含む(掘方)

図 14 02 掘立柱建物跡 平面図・土層断面図 (S=1/80)

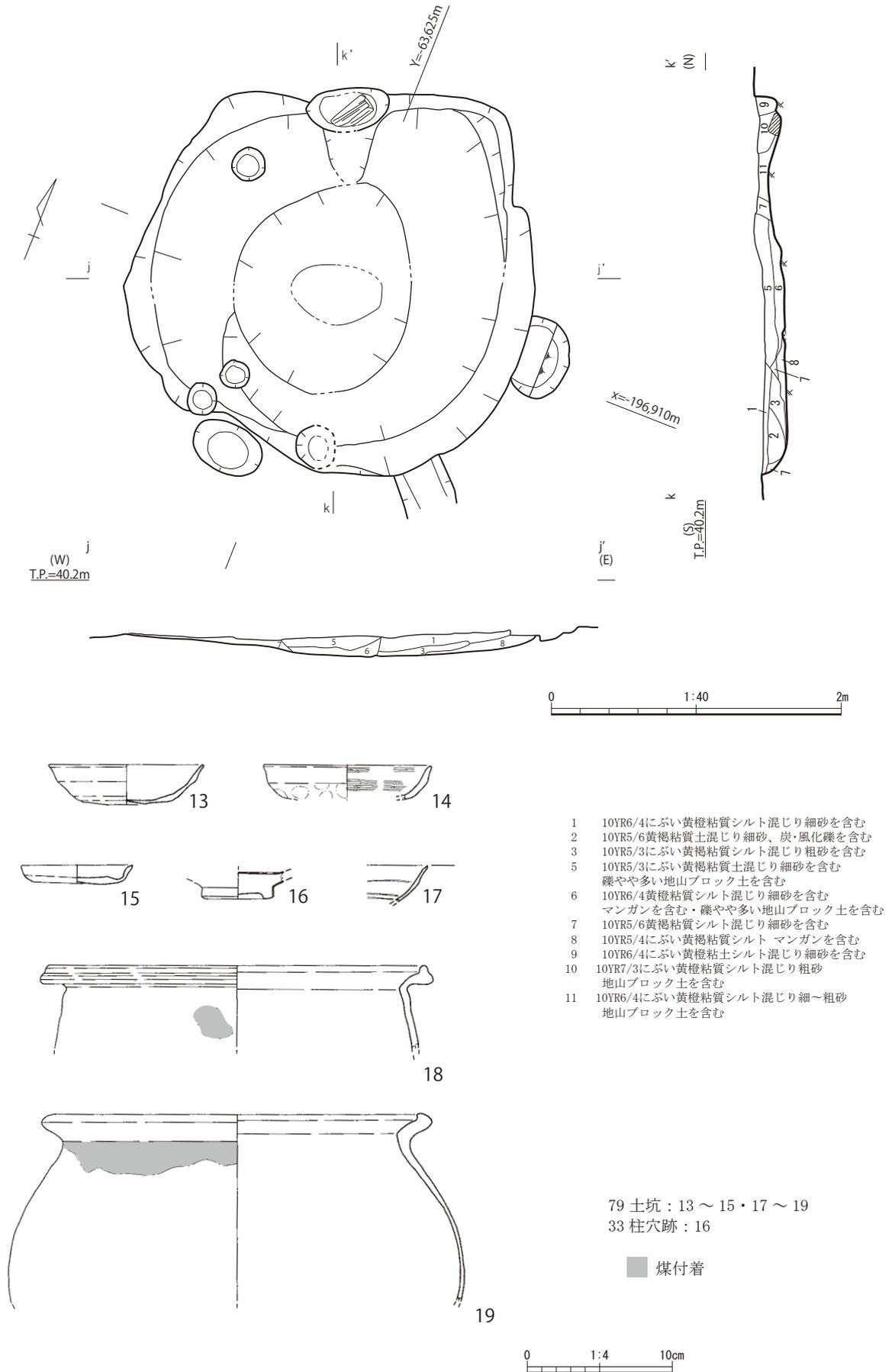


図15 79土坑 平面図・土層断面図及び各遺構出土遺物実測図

85土坑 調査区南西側のG10-b 6～7・c 6～7に位置する。T.P.+39.1mで検出した。平面形がやや楕円形を呈する土坑で、長径0.81m、短径0.67m、深さ0.13mである。埋土は10YR4/3に
ぶい黄褐色細砂～粗砂である。

97柱穴 調査区南側のG10-b 8に位置する。長径0.5m、短径0.4m、深さ0.25mの平面形が楕円形
の柱穴である。掘方のやや東寄りに、径0.12mの柱根の痕跡を確認した。埋土について、柱根
跡は10YR5/3にぶい黄褐色細砂混じり粘質土、掘方は10YR6/6明黄褐色粘質土の中間層に10YR5/3
にぶい黄褐色粘質シルトを呈し、底部に径2～5cmの礫～粗砂を含む。地山を掘削して、その際
に出た土を埋め戻したものである。遺物は土師器の細片が出土した。

102柱穴 調査区南側のG10-b 8に位置する。長径0.48m、短径0.45m、深さ0.23mの平面形が
楕円形の柱穴である。掘方のやや東寄りに、径0.25mの柱根の痕跡を確認した。埋土について、
柱根跡は10YR6/2灰黄褐色細砂混じり粘質土、掘方は10YR4/6褐色粘質土～10YR6/6明黄褐色地山
ブロック混じり粘質シルトを呈し、底部に細砂～粗砂を含む。地山を掘削して、その際に出た土

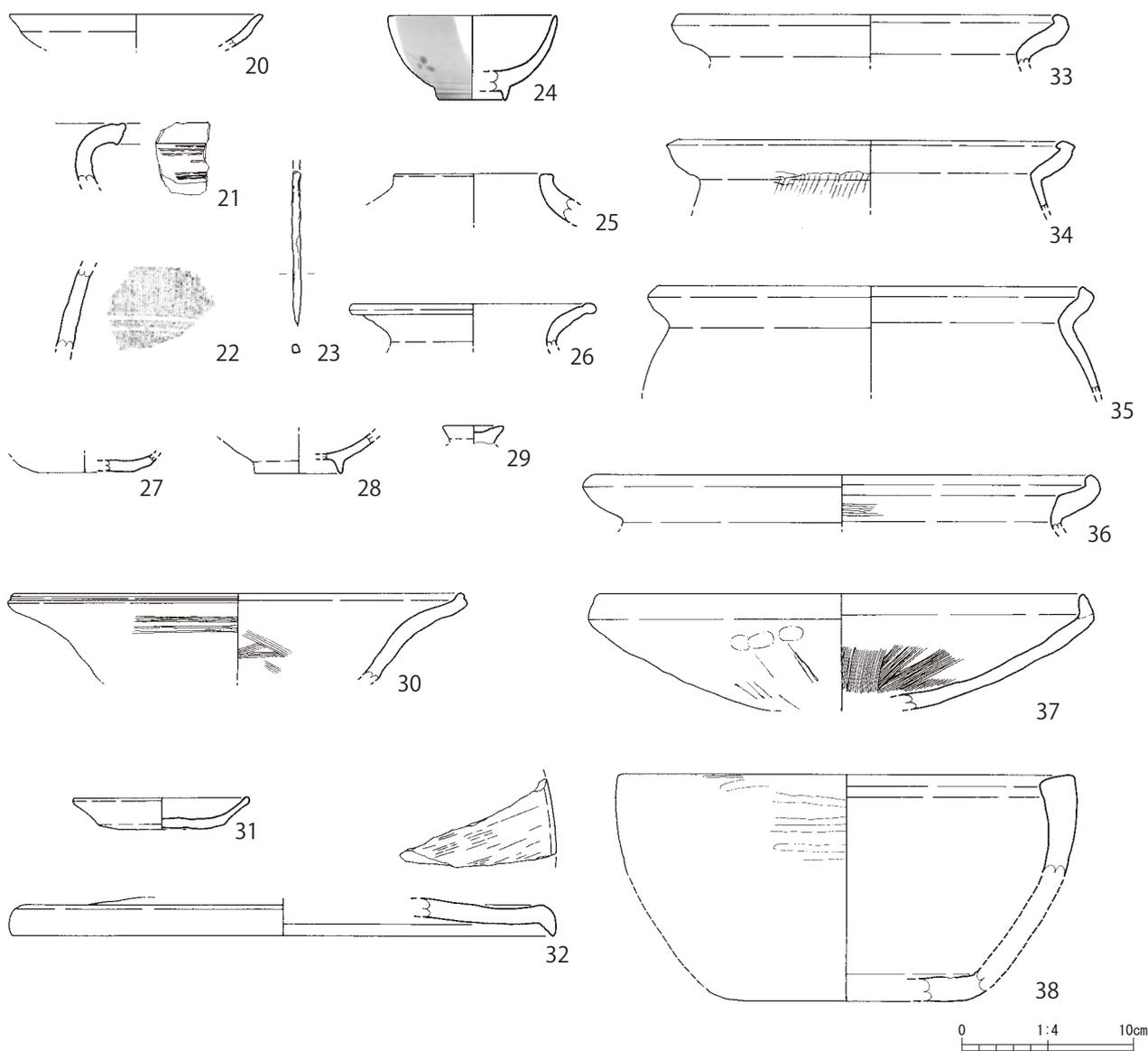


図16 第2調査区 第3層出土遺物実測図①

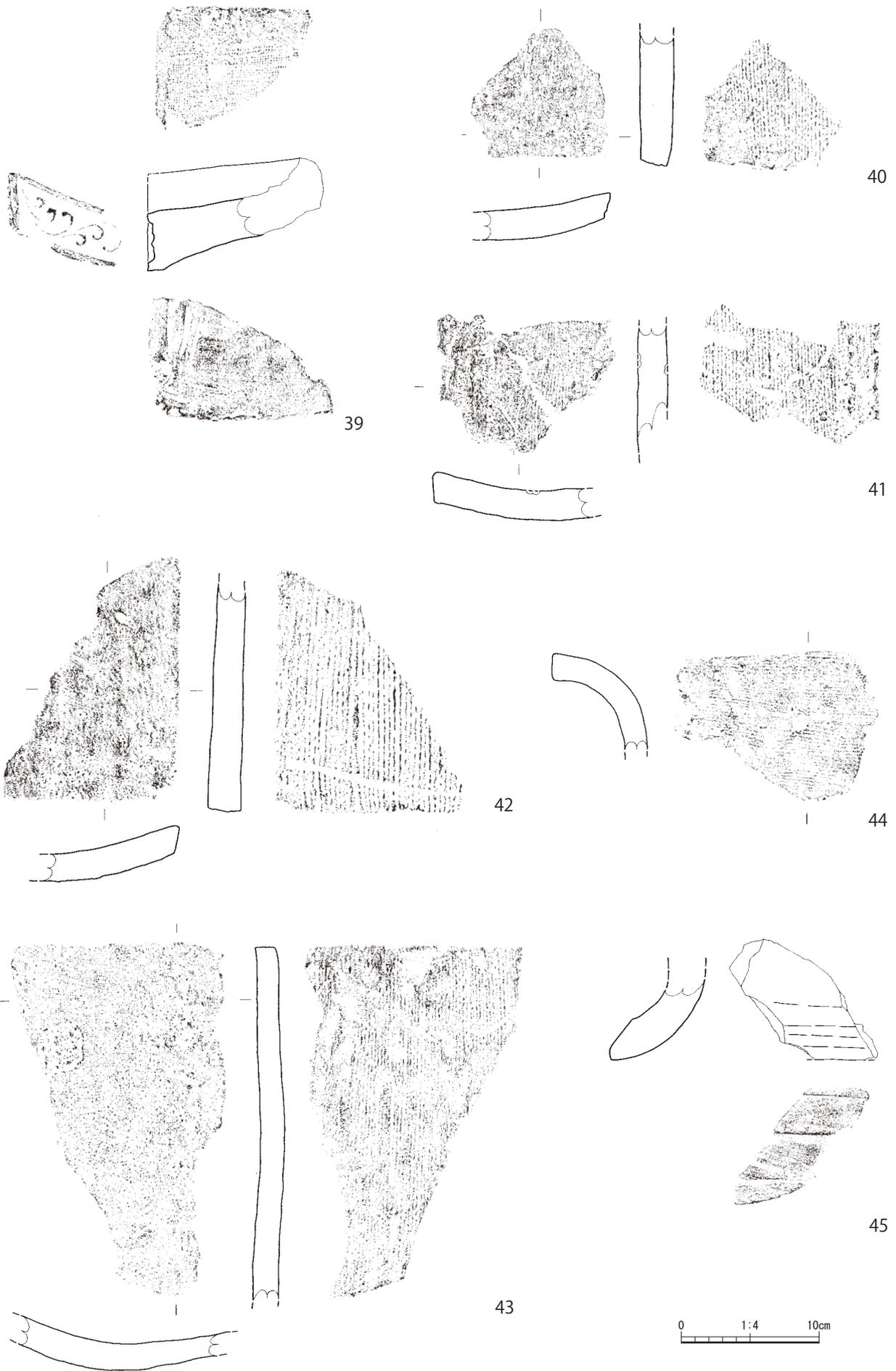


図17 第2調査区 第3層出土遺物実測図②

を埋め戻したものである。

111石積溝 調査区南側のG10-b 9~10・c 6~10・d 6に位置する。北西から南へ流れる石積の溝で18世紀後半の肥前系磁器染付等が出土した。第2調査区の西から東の斜面に沿って築かれた棚田の法面に沿って通っている市道・中21号線の下に位置する。この市道のモルタルで舗装された路面を除去したところ、拳大の石積による溝を検出したが、石積の残存状況が悪く、一部しか確認できなかった。

遺物 遺構から出土した遺物は、79土坑や33柱穴跡等を除くとごく少数で、他には土師器の細片が一部の遺構に出土したのみであった。

第3層造成土から13世紀後半~14世紀初頭の土師質土器釜または甕(33~36)が出土しているが、8世紀後半の須恵器蓋のつまみ部(29)、18世紀の土師質土器火鉢(38)等も含まれていることから、中世から近世にかけて周辺から運ばれた客土によって造成されたものと思われる。

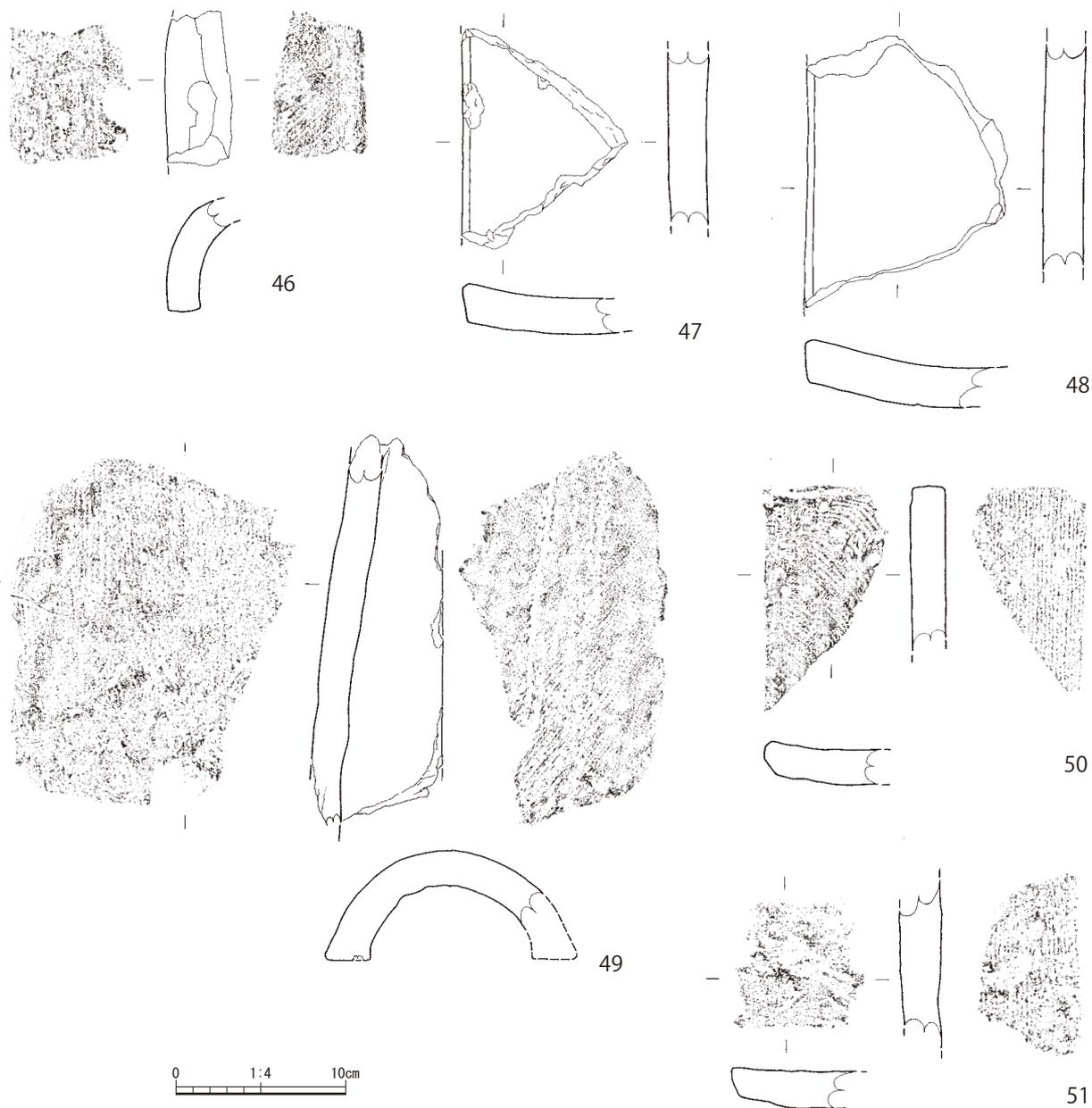


図18 第2調査区 第3層出土遺物実測図③

第4層耕作土からは、中国製青磁碗（54）等が出土しているが、古墳時代の須恵器短頸壺（52）や甗（55）も含まれており、耕作地として改変された際に、運ばれてきた客土に含まれていたものと思われる。第3層中からは、土器の他、室町時代後期の軒平瓦（39）が出土したが、凹面布目痕と凸面縄目タタキ目のある平瓦（40～43・51・58）や丸瓦（44・45）も含まれていた。

第5章 まとめ

今回の調査区では、13世紀の中国製青磁碗片や中世の土師器・瓦器片が出土する柱穴跡で構成された掘立柱建物跡2棟の他、多くの柱穴が確認されたことから、13世紀以降の中世の居住域があったものと思われる。

観音寺跡に関する基壇や遺構等の確認が期待されたが、調査の結果、明確な寺院跡と考えられる遺構は確認できなかった。布目痕や縄目痕のある、古代から中世の瓦類が遺物包含層から出土した。調査地周辺に古代寺院が展開していた可能性が高まった。

第1・2調査区において、中世以降、近代まで大規模な造成を行い、中世の集落跡から耕作地へと土地を改変した痕跡が確認できた。その土地改変した造成土と耕作土から中世から近世までの、中国製青磁碗・瓦器・土師器等の遺物が出土し、古墳時代の須恵器の甗・短頸壺、布目のある瓦等の中世以前の遺物も出土した。このことから古墳時代以降、中世以前の遺構がこの周辺に存在した可能性もでてきた。

当遺跡の北東に位置する北山三嶋遺跡でも15世紀以降に現況地割に沿うような溝が確認されて集落域や生産域から耕作地に改変されていることから、この地域においては中世以降に集落跡から耕作地へと土地が改変されて

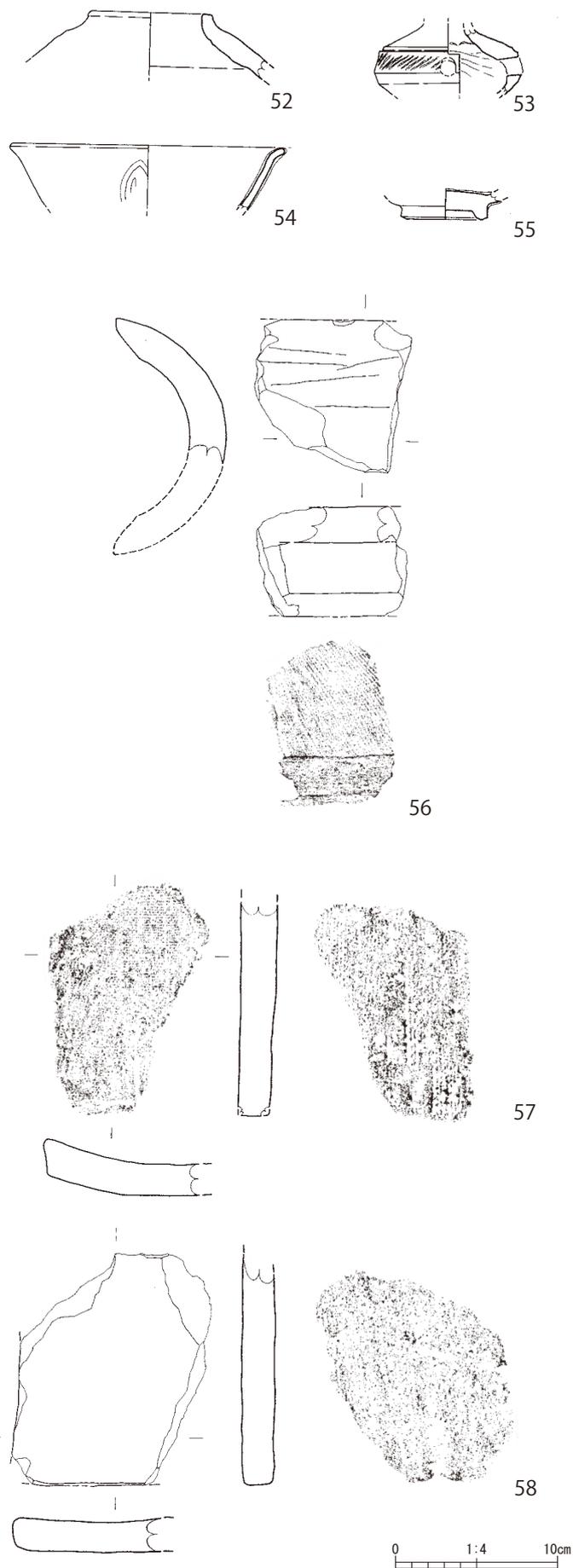


図19 第2調査区 第4層出土遺物実測図

耕作地化が進められたものと思われる。

布目瓦等の瓦類のみが造成土や耕作土、遺物包含層から出土したのみであったが、中世以降の大規模な造成による耕作地等の土地利用を考える上で、貴重な調査成果を得ることができた。

【参考文献】

貴志川町史編集委員会編（1981）「貴志川町史 第三巻 資料編2」

貴志川町史編集委員会編（1986）「貴志川町史 第一巻 通史編」

（財）和歌山県文化財センター（1996）「北山廃寺発掘調査書」

（公財）和歌山県文化財センター（2012）「北山廃寺、北山三嶋遺跡―中山間総合整備事業（北山地区）に伴う発掘調査報告書―」

和歌山県教育委員会（2020）「和歌山県埋蔵文化財調査年報―平成30年度―」

表1 出土遺物観察表(土器)

法量の()内は復元した大きさ 色調の内・外・断は「面」を省略している。色調は土色帖を基にし、マンセル記号を省略している

報告書 番号	図・ 図版 番号	実測 番号	登録 番号	地区	遺構 層位	種類	器種	法 量(cm)			残存率	形態・技法	胎 土	焼成	色 調	備 考	
								口径	高さ	底径							
1	図6	28	2	F9	Q・r 23・24	第4層上面	瓦器	椀	-	(2.4)	(4.8)	20%	内外面磨滅のため調整不明、 貼付高台	密 1.5mm大の片岩を 微量含む	良好	内・外・断)灰	反転復元 12世紀後半
2	図6 写真図版8	29	2	F9	Q・r 23・24	第4層上面	土師質 土器	盤	-	(2.9)	(12.5)	12%	内外面ヨコナデ	密 1.5mm大の白色粒 を微量含む、5mm大の 白色小石を1個含む	良好	内)灰褐 外)にぶい橙 断)橙	反転復元
3	図6 写真図版8	30	2	F9	Q・r 23・24	第4層上面	土師質 土器	鍋	(25.2)	(2.2)	-	8%	内外面磨滅のため調整不明瞭	密 0.5mm以下の赤色 酸化粒を微量含む	良好	内)にぶい橙 外)明褐色 断)灰	反転復元
4	図6 写真図版8	31	2	F9	Q・r 23・24	第4層上面	土師質 土器	鍋	(25.2)	(2.2)	-	7%	口縁部ヨコナデ、磨滅によ り不明瞭	粗 2mm以下の片岩・赤 色酸化粒を多量含む	良好	内・外)にぶい橙 断)灰白	反転復元
5	図6 写真図版8	32	11	F9	Q・r 23・24	西側斜面 第4層	土師質 土器	鍋	(31.1)	(4.9)	-	10%	内外面ヨコナデ、磨滅のため 調整不明瞭	粗 2mm以下の灰色・ 白色粒を多量含む	良好	内・外)にぶい橙 断)暗灰	反転復元
6	図12 写真図版8	26	52	G10	b9・10	溝111 第2層	須恵器	甕	-	(4.6)	-	頸部 10%	回転ナデ	やや密 2.5mm以下の 白色粒を多量含む	良好	内・外)灰 断)灰黄褐	反転復元
7	図12 写真図版8	24	40	F10	y10	第1層耕作土	須恵器	甕	(40.2)	(5.4)	-	5%	口縁、内面回転ナデ 外面力半目後タテハケ、沈線	密 1.5mm以下の白色 粒を少量含む	良好	内・外・断)灰	反転復元
8	図12 写真図版8	23	26	F10	y10	第1層耕作土	土師質 土器	鍋	(18.4)	(4.5)	-	口縁部 10%	口縁部ヨコナデ、外面ハケ目 6条/1cm 内面ハケ状工具によるナデ 12条/1cm	密 1mm大の赤色酸化 粒を少量含む	良好	内)明褐色 外)灰褐 断)褐灰	反転復元
9	図12	25	42	F10	y10	第1層耕作土	肥前系 染付	碗	(10.1)	(3.5)	-	8%	肥前系(波佐見)端反碗、口縁部 青海波文、総釉	密	良好	内・外)明青灰・ 暗青灰 断)灰白	反転復元 19世紀
13	図15 写真図版8	1	92	G10	g3	79土坑 覆土	土師器	皿	(10.6)	2.8	2.5	40%	口縁部ヨコナデ、外面上部ユ ビオサエ後ヨコナデ、外底部 ユビオサエ後ナデ、内底部ナ デ、内外面の磨滅が著しい	密 1~2mmの砂粒・赤 色酸化粒を含む、3mm 以下の長石を含む	良好	内・外)橙 断)淡褐	反転復元 13世紀中頃 ~後半
14	図15 写真図版8	2	93	G10	g3	79土坑	土師器	皿	(11.6)	(2.4)	-	口縁部 25%	口縁部ヨコナデ、外面ユビ オサエ 内面工具によるハケ目	密 1~2mmの砂粒・長 石・赤色酸化粒を含む	良好	内・外)にぶい橙 断)橙	反転復元 13世紀
15	図15 写真図版8	5	101 96	G10	g3	79土坑内 覆土	土師器	皿	7.6	1.3	4.5	95%	口縁部ヨコナデ、外底部・ 内面ユビオサエ後ナデ、内 底部ナデ	密 1~2mmの砂粒・赤 色酸化粒を含む、少量 の雲母を含む	良好	内・外・断)橙	反転復元 13前半~後半
16	図15 写真図版8	6	102	G10	h3	33柱穴跡	青磁	碗	-	(1.9)	4.2	20%	畳付・高台内露胎、釉の拭き 取りあり、高台内ハマ痕あり	密	良好	釉)オリブ灰 露胎)にぶい 黄橙 断)灰白	反転復元 13世紀前半 ~14世紀中頃
17	図15 写真図版8	7	113	G10	g3	79土坑	瓦器	椀	-	(2.6)	-	口縁部 5%	内外面ヨコナデ、内面暗文	密	良好	内・外)灰・灰白 断)灰白	13世紀前半
18	図15 写真図版8	4	100 89	G10	g3	土坑79内 覆土	土師器	鍋	(25.7)	(6.0)	-	口縁部 10%	口縁部ヨコナデ、外面ユビオ サエ後ナデ、内面ナデ、内外 面の磨滅が著しい	粗 1mm以下の赤色酸 化粒・白色粒を多く含 む、2mm×6mm大の 灰色粒を1ヶ含む	良好	内・外)にぶい橙 断)灰	反転復元
19	図15 写真図版8	3	99	G10	g3	土坑79内 中央土坑	土師器	鍋	(25.2)	(13.0)	-	口縁部 ~体部 20%	口縁部ヨコナデ、内面ケズリ 後ナデ、外面口縁部スス付 着、内外面とも磨滅のため調 整不明瞭	粗 1.5mm以下の白色・ 灰色粒を多量含む	良好	内)灰褐 外)橙・明褐 灰・にぶい 赤褐 断)褐灰	反転復元
20	図16 写真図版8	38	114	G10	-	排土	土師器	皿	(14.7)	(2.0)	-	12%	内外面ヨコナデ	密	良好	内・外・断)に ぶい橙	反転復元
21	図16 写真図版9	39	114	G10	-	排土	瓦質 土器	甕	-	(3.5)	-	5%	口縁部ヨコナデ、外面タタ キ、内面ユビオサエ後ナデ、 二次焼成を受けている	密	良好	内)にぶい橙 外)灰 断)オリブ灰	反転復元
22	図16 写真図版9	27	55	G10	c8・9 b9	第2・3層	須恵器	甕か	-	(5.3)	-	5%	外面タテハケ後沈線、ヨコハ ケ後タテハケ 内面回転ナデ、自然釉	密 1.5mm以下の白色 粒を少量含む	堅緻	内・外)灰 断)暗赤灰	反転復元
24	図16 写真図版9	19	66	G10	e6・7	第3層	肥前系 染付	碗	(9.6)	4.9	(3.9)	18%	肥前系(波佐見)、丸形碗、 外面雲輪草花文・畳付釉剥 ぎ、総釉	密	良好	内)明褐色 外)明緑灰・ 暗青灰 断)灰白	反転復元 19世紀
25	図16 写真図版9	14	59	F10	y10	第3-3層	須恵質 土器	短頸壺	(9.6)	(2.9)	-	12%	内外面回転ナデ	やや粗 1mm以下の白 色粒を微量含む	良好	内・外・断)灰	反転復元 7~8世紀
26	図16 写真図版9	15	59	F10	y10	第3-3層	須恵器	甕	(14.0)	(2.2)	-	5%	内外面回転ナデ	やや粗 1mm以下の白 色粒を微量含む	良好	内・外)灰 断)灰褐	反転復元
27	図16 写真図版9	33	81	G10	h1	第3-3層	土師器	皿	-	(1.0)	(5.6)	50%	外面ヨコナデ、内面・底部ナ デ内外面磨滅のため調整不明瞭	密 1mm以下の赤色酸 化粒を少量含む	良好	内)浅黄橙 外・断)橙	反転復元 13世紀
28	図16 写真図版9	20	68	G10	d5	東壁 第3-3層	黒色土 器か	椀	-	(2.4)	(5.0)	20%	内外面磨滅のため調整不明瞭 内面にスス付着	密 1.5mm以下の片 岩、赤色酸化粒を微 量含む	良好	内・外)にぶい橙 断)にぶい褐	反転復元 9~10世紀?
29	図16 写真図版8	12	59	F10	y10	第3-3層	須恵器	蓋 (つまみ)	つまみ径 3.6	(1.1)	-	つま み部 80%	内外面回転ナデ	密 1.5mm以下の白色 粒を微量含む	良好	内・外・断)灰	8世紀後半
30	図16 写真図版9	13	59	F10	y10	第3-3層	土師器	広口壺	(25.9)	(5.2)	-	10%	外面ヨコナデ、2ヶ所横方向に ハケ目5条/0.5cm、内面ヨコ ナデ、ハケ目5条/0.5cm	粗 1.5mm以下の褐色粒 を多量含む	良好	内) 橙 外) 浅黄橙 断) 灰	朝顔形土輪もしく は胎)稲山古 掘出土の器台形 土輪の可能性が ある。
31	図16 写真図版9	10	58	F10	y10	第3-2層	土師器	皿	(10.1)	1.9	(7.3)	45%	口縁部ヨコナデ、内底部 ナデ 外底部ナデ・ユビオサエ	密 1.5mm以下の白 色粒を少量含む	良好	内・外・断)橙	反転復元 13世紀前半 ~後半
32	図16 写真図版9	16	60	G10	a10	第3-2層	土師質 土器	火鉢 蓋	(31.9)	(2.2)	-	5%	外面ハケ目(単位不明) 内外面磨滅のため調整不明瞭	粗 1mm以下の赤色酸 化粒を多量含む	良好	内)橙 外)にぶい橙 断)灰	反転復元
33	図16 写真図版9	9	58	F10	y10	第3-2層	土師質 土器	鍋	(21.8)	(2.9)	-	口縁部 12%	口縁部ヨコナデ	密 1mm以下の赤色酸 化粒を少量含む	良好	内・外)にぶい橙 断)灰	反転復元 12世紀後半
34	図16 写真図版9	8	58	E10	y10	第3-2層	土師質 土器	鍋	(22.3)	(4.0)	-	口縁部 10%	口縁部ヨコナデ、外面ハケ 目4条/1cm、スス付着、内 面ケズリ後ナデか、磨滅のた め調整不明	密 1mm以下の褐色粒 を少量含む	良好	内)橙・にぶ い褐 外)浅黄橙 断)灰黄褐	反転復元 13世紀後半 ~14世紀初頭
35	図16 写真図版9	22	60	G10	a10	第3-2層	土師質 土器	鍋	(24.7)	(6.3)	-	口縁部 ~肩部 10%	内外面磨滅のため調整不明瞭	やや粗 1mm以下の褐 色粒を多量含む	良好	内)橙 外)浅黄橙 断)灰黄	反転復元 12世紀後半 ~14世紀初頭
36	図16 写真図版9	17	60	G10	a10	第3-2層	土師質 土器	鍋	(24.1)	(3.0)	-	口縁部 16%	口縁ヨコナデ、内面ハケ目	密 1mm以下の白色・ 赤色酸化粒を少量含む	良好	内)にぶい赤褐 外)灰赤 断)灰褐	反転復元 12世紀後半
37	図16 写真図版9	18	60	G10	a10	第3-2層	土師質 土器	焙烙	(28.4)	(6.8)	-	30%	口縁ヨコナデ、外面ユビオサ エ・ヘラケズリ、内面細かいハ ケ目14条/1cm	密 1mm以下の褐色粒 を微量含む	良好	内)にぶい黄橙 外)明赤褐 断)灰	反転復元 19世紀初めか
38	図16 写真図版9	11	58	F10	y10	第3-2層	土師質 土器	火鉢	(26.5)	(13.4)	(14.0)	5%	口縁外面ヘラミガキ、口縁内 面ヨコナデ、外底部ナデ、内 底部ヨコナデ	密 1mm以下の白色・赤 色粒を微量含む	良好	内・外)黒 断)灰褐	反転復元 18世紀か
52	図19 写真図版10	35	111	G10	b10	南壁 第4-1層	須恵器	短頸壺	(7.5)	(4.0)	-	12%	内外面回転ナデ、口縁外面 自然釉	密 1mm大の白色粒を 微量含む	良好	内)灰 外・断)灰白	反転復元
53	図19 写真図版10	34	112 61	G10	a10	南壁 第4-1層	須恵器	甕	体部 最大径 9.2	(4.4)	-	70%	体部外面刺突文、下部回転ヘ ラケズリ 体部内面の上部ナデ、下部 絞り痕	密 5mm以下の淡褐色 粒を少量含む	堅緻	内)黒 外)灰白・暗灰 断)暗赤灰	一部反転復元 13世紀前半 ~14世紀中頃
54	図19 写真図版10	37	112	G10	a10	南壁 第4-1層	青磁	碗	(16.6)	(4.0)	-	10%	外面:縞蓮弁文	密	良好	内・外)オリ ブ 断)灰白	反転復元 13世紀
55	図19 写真図版8	36	112	G10	a10	南壁 第4-1層	青磁	碗or杯	-	(1.9)	(4.6)	90%	高台部 高台外面まで釉がかり畳付 を含めて外底部無釉のもの	密	良好	内)オリブ 露胎)緑灰・灰 断)灰白	一部反転復元 13世紀前半 ~14世紀中頃

表2 出土遺物観察表 (瓦)

法量の()内は復元した大きさ 色調の内・外・断は「面」を省略している。色調は土色粘を基にし、マンセル記号を省略している

報告書 番号	図・ 図版 番号	実測 番号	登録 番号	地区		遺構 層位	器種	法 量(cm)			残存率	形態・技法	胎 土	焼成	色 調	備 考
								長さ	幅	厚さ						
10	図12 写真図版8	41	116			排土	丸瓦	(9.1)	13.1	1.4	5%以下	凹面布目痕、いぶし	密 細かい白色砂粒を多量含む	良好	内・外灰白～暗灰断灰	
11	図12 写真図版8	40	116			排土	軒丸瓦	(15.0)	(3.3)	2.7	瓦当部20%	巴文、珠文17ヶか?(現存4ヶ所)凸面ヨコナデ、ナデ	密 細かい白色砂粒を中量含む	良好	内・外暗灰断灰	近世前期(江戸前期?)
12	図12 写真図版8	42	52	G10	b9・10	溝111第2層	平瓦	(10.6)	(10.6)	2.1	20%	凹面布目痕、凸面縄目タタキ目	粗 1.5mm以下の白色粒を多量含む。3.5mm大の小石を含む	良好	内・断暗灰外)暗青灰	
39	図17 写真図版9	47	60	G10	a10	第3-2層	軒平瓦	(12.8)	(7.7)	瓦当4.1	15%	瓦当面:対向唐草文、凹面布目面	密 2mm以下の白色粒を少量含む	良好	内・外・断)灰白	室町後期
40	図17 写真図版9	44	60	G10	a10	第3-2層	平瓦	(9.8)	(9.4)	2.5	10%	凹面布目痕、凸面縄目タタキ目	やや粗 最大5mm大の黒色粒・2mm以下の白色粒を多量含む	良好	内・外)暗青灰断灰	
41	図17 写真図版9	43	58	F10	y10	第3-2層	平瓦	(9.3)	(11.8)	2.2	10%	凹面布目痕、凸面縄目タタキ目二次焼成	粗 4mm以下の黒色粒を多量含む	良好	内)灰外)暗青灰断灰・暗灰	
42	図17 写真図版9	45	60	G10	a10	第3-2層	平瓦	(16.7)	(10.3)	2.6	25%	凹面布目痕、凸面縄目タタキ目	粗 5mm以下の白色・灰色・チャートを多量含む	粗	内・外)灰断灰	
43	図17 写真図版10	46	60	G10	a10	第3-2層	平瓦	(26.2)	(15.5)	(2.4)	45%	凹面布目痕、凸面縄目タタキ目	粗 5mm以下の片岩 白色粒を多量含む	やや軟	内)灰外)灰白断)にぶい黄橙	
44	図17 写真図版10	48	60	G10	a10	第3-2層	丸瓦	(8.6)	(7.0)	2.2	20%	凹面布目痕、凸面縄目タタキ目	粗 5mm以下の褐色・白色粒を多量含む	良好	内)灰黄褐外)にぶい橙断)明オリブ灰	
45	図17	49	60	G10	a10	第3-2層	丸瓦	(10.8)	(8.8)	2.5	10%	凹面布目痕・ヘラクスリ、凸面コピキ金	密 4mm以下の白色粒を少量含む	良好	内・外)灰断灰	
46	図18 写真図版9	55	78	G10	g3	第3-3層	丸瓦	(9.1)	(4.0)	1.9	10%	凹面布目痕と糸切痕凸面縄目タタキ目	密 5mm以下の赤色酸化粒を少量含む	良好	内)暗灰外)断灰	
47	図18 写真図版10	50	59	F10	y10	第3-3層	平瓦	(13.2)	(9.7)	2.3	10%	凹面布目痕か板の圧痕か不明瞭凸面工具によるナデか、ハナレ砂付着	密 細かい白色砂粒を多く含む	良好	内・外・断)灰白	
48	図18 写真図版10	51	59	F10	y10	第3-3層	平瓦	(15.0)	(11.9)	2.5	10%	凹面工具によるナデか凸面ハナレ砂付着	密 1～2mmの石英・チャートを多量含む	良好	内)灰黄褐外・断)灰白	
49	図18 写真図版10	52	59	F10	y10	第3-3層	丸瓦	(21.0)	(12.9)	2.2	45%	凹面布目痕とコピキ痕、凸面縄目タタキ目	密 1～5mmの石英中量、1～2mmの赤色酸化粒を少量含む	良好	内・外)灰断灰	
50	図18 写真図版10	53	61	G10	a10	第3-3層	平瓦	(9.9)	(6.9)	2.2	10%	凹面布目痕と糸切痕、コピキ痕凸面縄目タタキ目、側面糸切痕	密 2mm大の黒色粒を少量含む	良好	内・外)暗青灰断灰	
51	図18 写真図版10	54	61	G10	a10	第3-3層	平瓦	(10.0)	(12.5)	2.5	10%	凹面布目痕、凸面縄目タタキ目	密 3mm以下の白色・灰色粒を少量含む	良好	内)オリブ灰外・断)灰	
56	図19 写真図版10	58	111	G10	b10	南壁第4-1層	丸瓦	(9.3)	(9.0)	2.3	5%以下	凹面布目痕・コピキ痕、凸面ヘラナデ	密 8mm大の石英、1～2mmの石英・赤色酸化粒を少量含む	良好	内・外)灰断灰	
57	図19 写真図版10	57	112	G10	a10	南壁第4-1層	平瓦	(13.5)	(9.8)	2.3	10%	凹面布目痕・クスリか、凸面縄目タタキ目	やや粗 3mm以下の灰色粒を多量含む	やや軟	内)灰外)黄灰断灰	
58	図19 写真図版10	56	112	G10	a10	南壁第4-1層	平瓦	(14.4)	(9.3)	2.1	10%	凹面布目痕、凸面縄目タタキ目	やや粗 5mm以下の長石・片岩を多量含む	軟	内)にぶい黄橙・灰外・断)にぶい黄橙	

表3 出土遺物観察表 (鉄製品)

報告書 番号	図・ 図版 番号	実測 番号	登録 番号	地区		遺構 層位	器種	法 量(cm)			残存率	形態・技法	備 考
								長さ	幅	厚さ			
23	図16 写真図版8	21	76	G10	h3	第3層	釘	(9.1)	0.45	0.5	90%	釘頭なし	

1. 調査区 全景
(西上空から)



2. 第3層上面 耕作地検出状況
(北から)



3. 調査区 第5層上面 全景
(北から)





1. 調査区中央 東西方向土層断面
(北から)



2. 調査区南 西壁土層断面
(東から)



3. 確認トレンチ1 全景
(西から)

1. 確認トレンチ1 北壁土層断面
(南から)



2. 確認トレンチ2 全景
(南から)



3. 確認トレンチ2 北壁土層断面
(南から)





1. 調査地 全景
(南上空から)



2. 調査区 全景
(西上空から)



3. 調査区 全景
(北上空から)

1. 調査区北 第5層上面 全景
(北から)



2. 調査区中央 第5層上面
01 掘立柱建物跡
(東から)



3. 調査区中央 第5層上面
02 掘立柱建物跡
(東から)





1. 調査区中央 第5層上面
78土坑全景（東から）



2. 調査区中央 東壁土層断面
（西から）

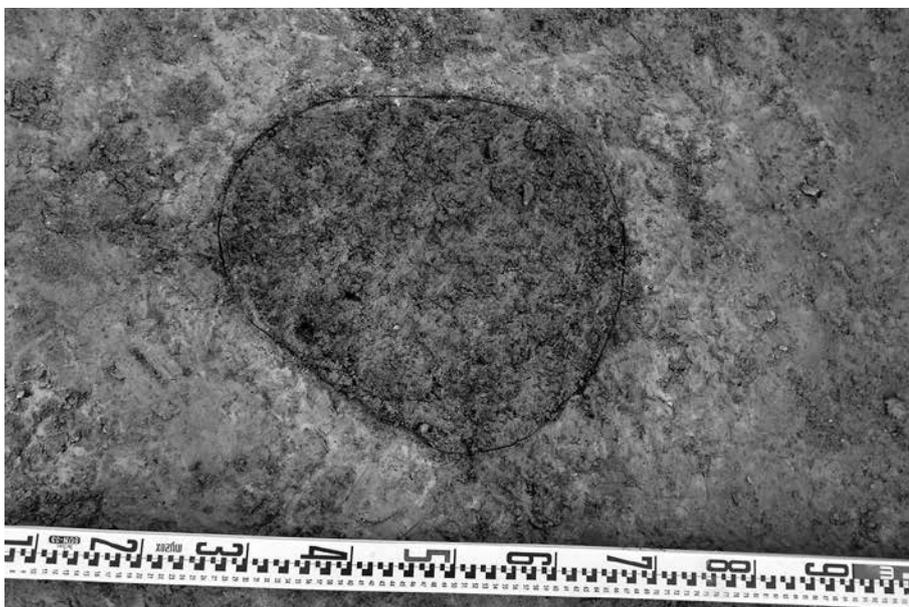


3. 調査区南 南壁土層断面
（北西から）

1. 調査区南 第5層上面 全景
(東から)

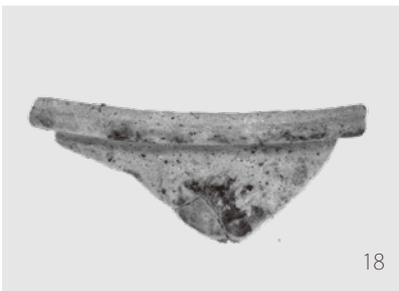
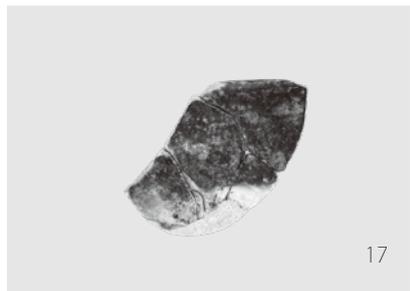
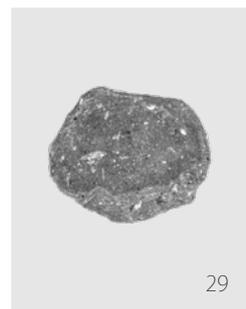
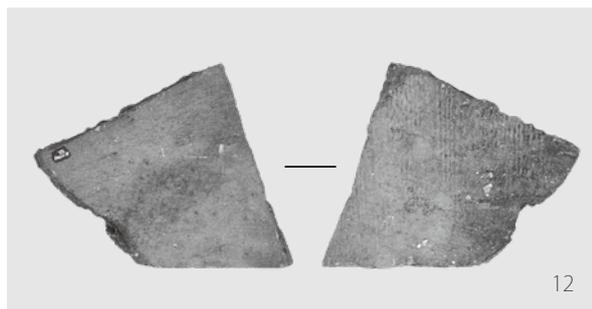
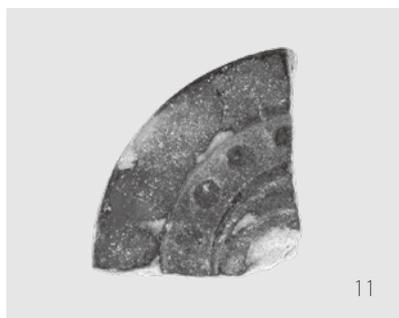
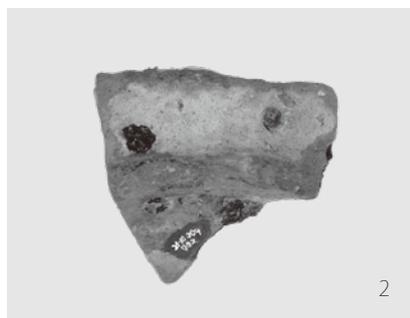
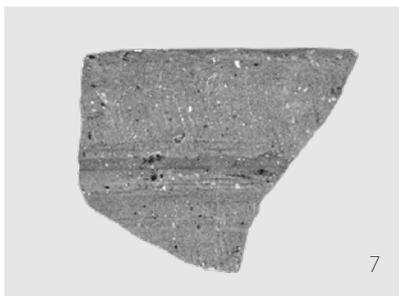
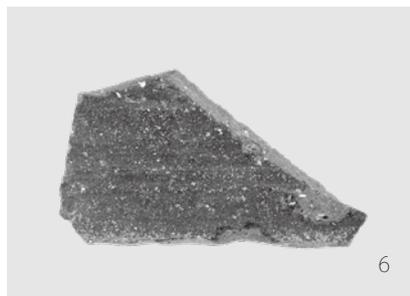
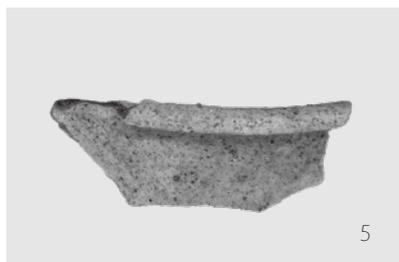
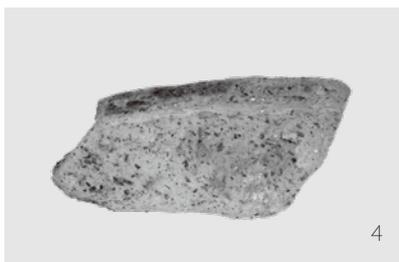


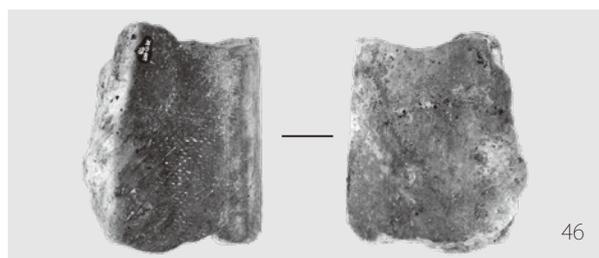
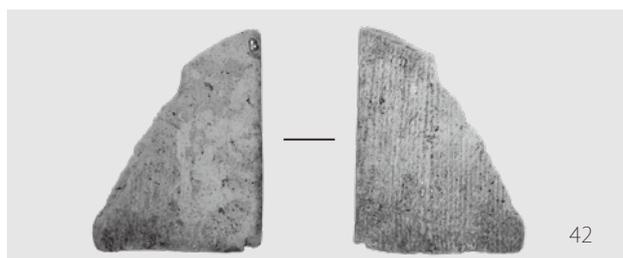
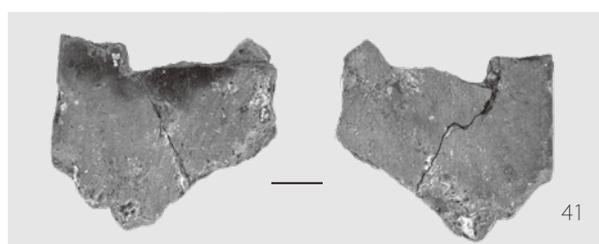
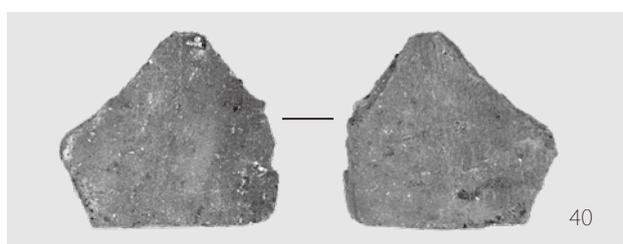
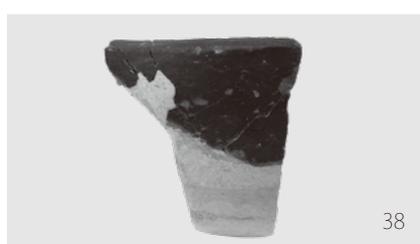
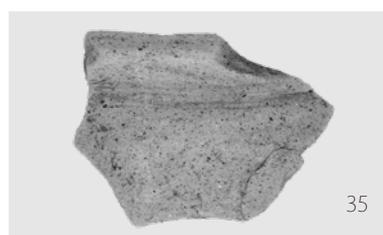
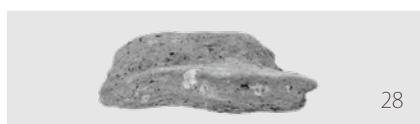
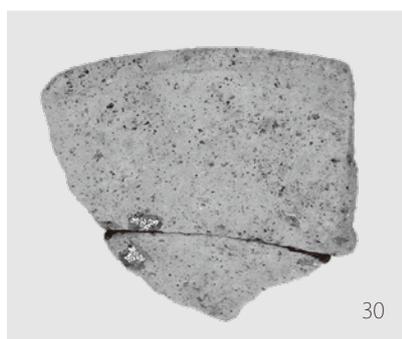
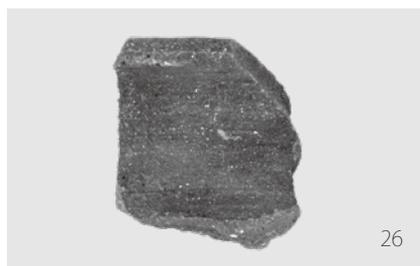
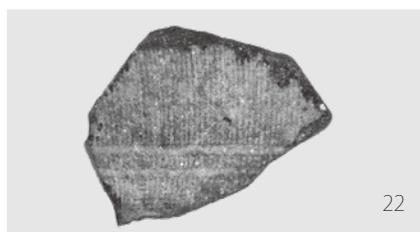
2. 調査区南 第5層上面
102 柱穴跡検出状況
(南から)

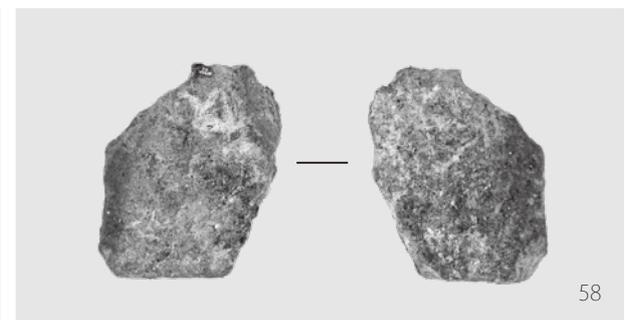
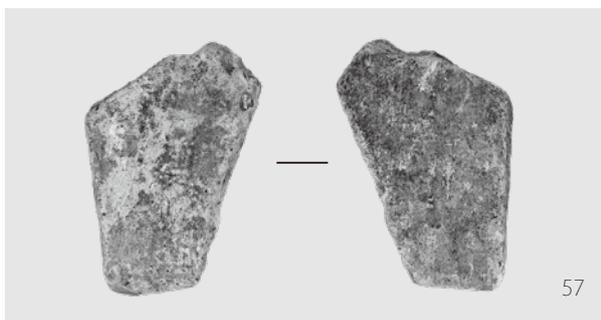
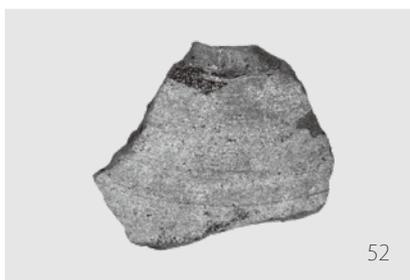
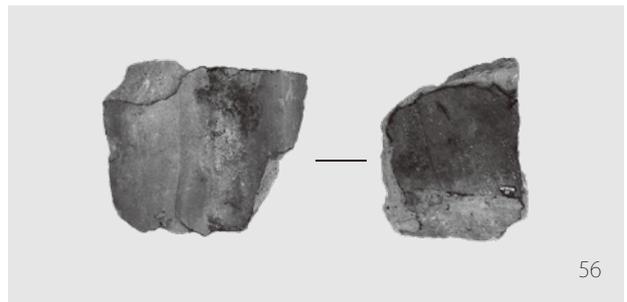
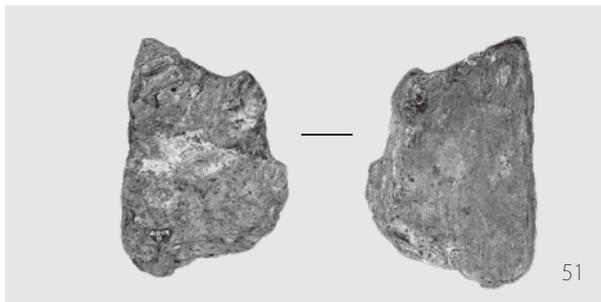
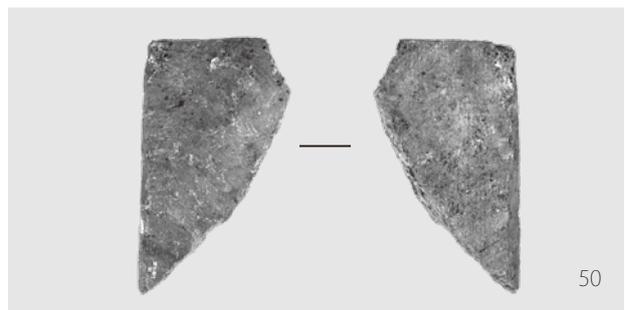
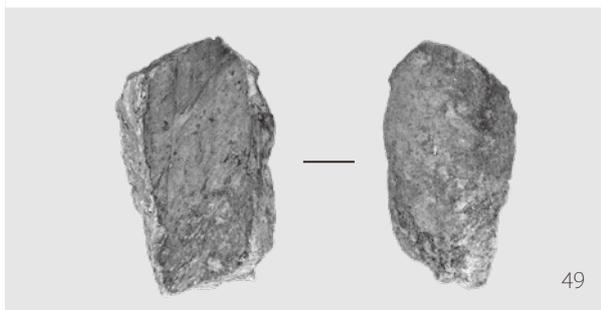
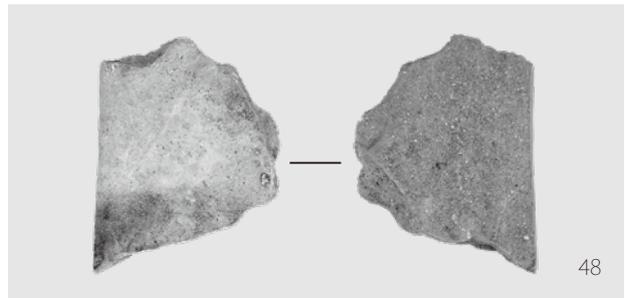
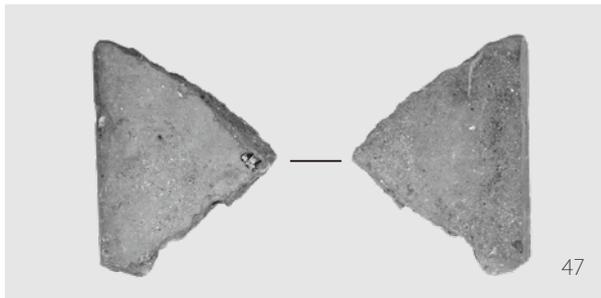
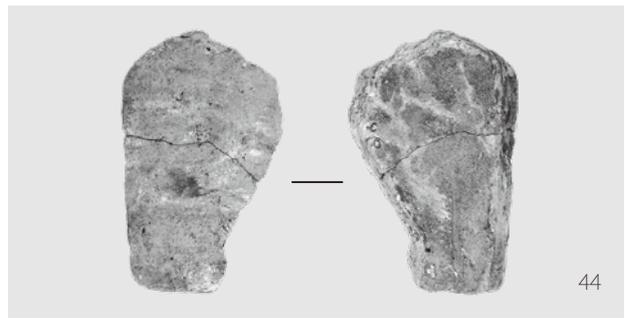
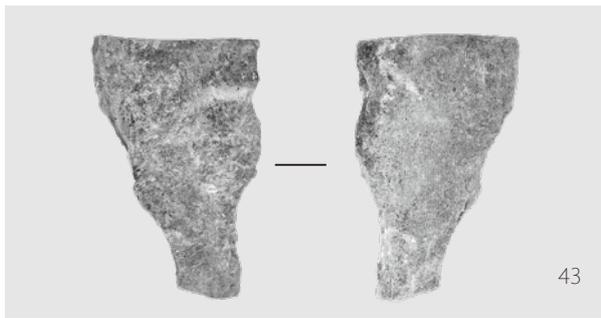


3. 調査区南 第5層上面 111 石積溝
(北から)









報告書抄録

ふりがな	あまでらかんのんじあと							
書名	尼寺観音寺跡							
副書名	県営中山間総合整備事業尼寺地区ほ場整備に伴う発掘調査報告書							
巻次	――							
シリーズ名	――							
シリーズ番号	――							
編著者名	田之上裕子							
編集機関	公益財団法人 和歌山県文化財センター							
所在地	〒 640-8301 和歌山市岩橋 1263 番地の 1 TEL 073 - 472 - 3710							
発行年月日	西暦 2023 年 3 月 10 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
あまでらかんのんじあと 尼寺観音寺跡	わかやまけん 和歌山県 きのかわしきしがわちよう 紀の川市貴志川町 あまでら 尼寺	30208	009	34° 13' 23"	135° 18' 33"	20210927 ～ 20220131	799.8 ㎡	県営中山間 総合整備事 業尼寺地区 ほ場整備
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
尼寺観音寺跡	寺院跡	中世から近世	耕作地への大規模な 土地の改変跡 中世の掘立柱建物跡	土師器・瓦器・中国製青磁 碗・瓦・須恵器			造成土と耕作土から 古墳時代の須恵器、 古代の瓦が出土。	
要約	<p>観音寺跡に関する基壇や遺構等の明確な寺院跡と考えられる遺構は確認できなかった。しかし、中世以降に大規模な土地の改変が行われ、集落から耕作地へと変更された痕跡が確認できた。造成土と耕作土から土師器・瓦器等の中世土器とともに、古墳時代の須恵器、布目痕や縄目痕のある古代以降の瓦が出土したことから、古墳時代以降の遺構が調査区周辺に存在する可能性がある。</p>							

尼寺観音寺跡

一県営中山間総合整備事業尼寺地区ほ場整備事業に伴う
発掘調査報告書一

2023年3月10日

編集・発行：公益財団法人和歌山県文化財センター
〒640-8301 和歌山県和歌山市岩橋1263番地の1
印刷・製本：白光印刷株式会社